



# 咲耶

咲耶会 (大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

会報「咲耶」  
2018 No. 29

世界各地の無電化地域に希望のあかりを届ける「ソーラーランタン10万台プロジェクト」をはじめ、パナソニックは長年培ってきた技術やノウハウを活かし、これまでさまざまな企業市民活動を続けてきました。

2018年度からは、より多くの方々にご参加いただけるよう、本・CDなどの寄付や、クラウドファンディングを活用した「みんなで“AKARI”アクション」をスタート。

今後も社会課題の解決を通じて、より良いくらしの創造と、この世界に生きる一人ひとりの幸せに貢献していきます。

ソーラーランタンの寄贈による「持続可能な開発目標(SDGs)」への貢献



A Better Life, A Better World





【表紙のことは】  
終戦の年の3月13日、大阪大空襲により上本町の学舎は書庫等を除き大部分が焼失。戦後しばらくの間大阪高等学校と五条小学校を借りて授業を再開。昭和21年2月には、高槻市の旧陸軍工兵第四連隊跡に移転した。大阪学舎の復興事業により、昭和27年から後期課程(3、4年)は大阪学舎で授業を開始、前期課程(1、2年)は高槻に残った。以後、高槻と大阪の分散授業が続き、昭和32年4月にすべての授業が大阪学舎で行われるようになるまでの11年2カ月間、母校はこの地にあった。画像から溢れる若さとエネルギー。戦後の窮乏期、長い戦争の時代を耐え抜いて得た平和の中で、青春を謳歌したいという若者の願いは、今以上に強かったのだろう。外事専門学校から新制大学へ、女子学生の受け入れが始まったのもこの時代である。

目次	
2	会員の皆さまへ(会長 少徳敬雄) ご挨拶(大阪大学理事・副学長 工藤眞由美)
3	就任のご挨拶(大阪大学外国語学部長 大内 一) 平成30年度総会・懇親会のご案内
4	咲耶会の皆様へ
5-8	[特集] 学舎・寮生活の思い出
9-10	[特集] 留学体験記
11-12	私のキャリアレポート
13	菜の花「言葉の力」
15-19	CAMPUS NEWS
20	懐かしの恩師は今
21-22	部活動の広場
23-27	咲耶会ニュース
27	平成29年度 決算報告・平成30年度 予算案
28-30	つどい
31-37	支部だより
38-41	短信
41	物故者
42-44	年会費支払者・賛助金寄付者一覧
45	咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表
46	平成30年度 咲耶会役員名簿 個人情報の取扱いについて／編集後記

# 学士会をご存じですか？

学士会は旧七帝大(北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大)の卒業生・教員・学生からなる、七大学総合同窓団体です。咲耶会の皆さまのご入会をお待ちしております！

学士会会員特典

- 1 『學士會會報』が届きます。
- 2 講演会・イベントへ参加できます。
- 3 「学士会館」会員優待があります。

他にも様々な活動が可能です。詳細は学士会公式サイトをご覧ください。  
<http://www.gakushikai.or.jp/>

学士会案内が届く準会員(無料登録)制度もございます。

一般社団法人 学士会

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28  
03-3292-5933 (平日9時~17時)



## 会員の皆さまへ



会長  
少徳敬雄

## 咲耶会を持続可能な姿に変えるため、 会員の皆さまのさらなるご協力を！

咲耶会の会員の皆さまには、過去1年賜りましたご協力、ご支援に感謝申し上げます。以下2点、挨拶にかえてご報告いたします。

### 1. プライマリーバランスについて

昨年の8月5日の第2回幹事会および11月11日の会員総会に於いて、2017年度のプライマリーバランスを達成するための予算計画をご提案し、ご承認をいただきました。又、新規会員の入会率が全体の入学者の2割にも満たない中で、咲耶会の現状を直視し、入会制度等を見直し、2018年の幹事会及び会員総会に提案をすることになりました。

2017年度は収入増、支出減を厳しく実施し、年度内の収入で支出を賄う計画を立て、年度前半の見通しでは、プライマリーバランスを達成する見込みはかなり明るかったのです。ところが大学本部から合格者及び保護者宛てに送付する入学案内に咲耶会の入会案内の同封をお願いする過程で漏れがありました。このため、予算計画では100人の新入学生の入会を見込んでおりましたが、結果は51名になりました。この非常事態に対処するため、学部主催の全専攻語向けのオリエンテーションで、私及び井上副会長が新入学生に直接話しかけ、また大内外外国語学部長からも別途、新入学生全員、保護者全員にレターにて入会勧誘をおすすめいただいて、挽回をはかりましたが、期待した成果は上がりませんでした。さらに、年会費収入も、2016年度に年会費を長期に支払っていない会員等への広報『咲耶』送付停止をアナウンスした際に、急に支払いが増加、その勢いで計画1,600名の年会費支払者を見込んでおりましたが、実績は1,500名弱となりました。この2つの事由により、他の分野で収入増、支出減につとめたものの、プライマリーバランスは約160万円の未達となりました。

注: 27頁 平成29年度決算参照

### 2. 入会制度の見直し

咲耶会の入会制度の見直しにつきましては、会長、副会長が今ま

## ご挨拶



大阪大学理事・副学長  
工藤眞由美

同窓の皆さまにはお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

男女協働推進、広報を担当しております理事・副学長の工藤眞由美です。同窓会誌『咲耶』29号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

大阪大学は、2007年の統合後、半数以上が女子学生の外国語学部ができたことにより、国立大学のなかで最大数の女子学生が在籍するようになりました。統合後最初の1回生を迎えた2008年度から、全学共通教育の雰囲気が一変したことが昨日のことに思い出されます。しかしながら、比率的には全体として約33%に留まっており、世界の有数大学と比較するとまだまだの状況です。

2015年9月に、持続可能な社会を世界レベルで実現するため

でに数回にわたり検討いたしました。また、咲耶会会員および役員の皆さんから、アンケートにより、ご意見、ご提案をいただき、検討の対象といたしました。

入会金25,000円の廃止、入学者全員を会員とする、入学時ではなく、卒業時に入会金を払う、年会費、咲耶賛助金の不足分をシニアの寄付に求める、『咲耶』の電子化、制度はあまり変えない方が良く、すべての卒業生を会員扱いとし、入会金、年会費は寄付として払ってもらう等々沢山のご意見、ご提案をいただきました。皆さまの母校への熱い思いをありがたく感じました。これらの提案の実施にあたり、収支バランスとの整合性をいかにつと持続可能な姿にもっていくかが最大の課題であります。今年度は新入生の入会数の激減という事態もあり、新規の入会制度の提案を1年余り延期することにし、もう少し、幅広く若い人も含め、意見、要望を聞き、新しい持続可能な入会制度(年会費、賛助金との関連も含めて)を検討したいと考えております。

2012年よりそれまでの終身会費制から入会金+年会費制度を導入して、その制度の定着をはかってまいりました。2,000名の会員の方々に年会費3,000円を支払っていただくことを当面の目標としております。今のところ1,500名弱程度で会報送付数約20,000人の8%となっております。

最後になりましたが、私は2018年10月20日(土)の咲耶会総会をもって会長職を辞し、後任には皆さまのご承認を得て、大水勇副会長をお願いしたいと思います。私的事情で申し訳ないのですが、数年前より体調を崩しており、筆記、Speech、歩行等に支障をきたして苦勞しております。本来ならば、プライマリーバランスを達成して辞任とすべきところですが、病気の治療とリハビリに専念するため休ませていただきたく、ご了承賜りますようお願い申し上げます。会長7年、副会長4年合わせて11年の長きにわたり会員の皆さまより賜りましたご支援、ご協力を心よりお礼申し上げます。後任の大水氏にも私同様、温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。ありがとうございました。

に、「だれ一人取り残さない」を理念として、「SDGs (sustainable development goals)」が国連で合意されました。世界を変革するための17の目標が定められ、その5番目の目標として「ジェンダー平等を実現しよう」が掲げられています。大阪大学は、2016年4月に「男女協働推進宣言」ならびに女性活躍推進法に基づく行動計画を公表し、男女協働推進センターを設立しました。

ダイバーシティ&インクルージョンという言葉もよく耳にするようになりました。総長のリーダーシップのもと、多様な知と人材が交差する魅力あるダイバーシティ環境実現を目指しています。これからは、女性はもちろん、多様な価値観や文化的背景を持つ人の力を結集できる組織こそが繁栄していくのではないのでしょうか。そのためには、国内外の多岐にわたる分野で活躍されている卒業生の皆様との絆をさらに深めることが不可欠です。

皆さまの御支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶にかえて



大阪大学外国語学部長  
大内 一

平成29年10月1日より外国語学部長を拝命しているイスパニア語大28期卒業の大内一でございます。咲耶会の皆様には、平素より外国語学部に対する温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。就任のご挨拶は、昨年10月に咲耶会のホームページ上でさせて頂いており、就任後すでに一年近く経ちますので、ご挨拶にかえて外大創立100周年事業に関連するご報告とご協力依頼をさせていただきます。

本年度は大阪大学にとり多難な幕開けとなりましたが、箕面キャンパス移転関連で去る6月に朗報がありました。箕面新キャンパスの最寄り駅の名称が「箕面船場阪大前」に決定したことです。新駅の名称に「阪大」の二文字が入ることは西尾総長も強く望んでおられましたので、箕面キャンパスだけでなく阪大全体にとってめめたい出来事になりました。駅名に恥じぬよう、箕面新キャンパスの核である外国語学部が大阪大学を代表する学部になれるよう誠心誠意努力したいと思います。



大阪外国語大学記念ホール イメージパース

新キャンパスの研究教育棟に設けられる「大阪外国語大学記念ホール」のイメージ図ができました。木製ルーバーを用いた上品な仕様になると思います。後方の外部庭空間の右奥に烈士の碑が移築される予定です。また、外国語学部では、写真集『大阪外国語大学100年史』（仮称）の出版を予定しており、学生時代の思い出に残るお写真のご提供を咲耶会の皆様をお願いしています。「記念ホール」の施設を中心とする箕面キャンパス整備事業へのご寄付ならびに『100年史』への写真提供の方法については、右頁をご覧ください。

以上、ご依頼が多くなって心苦しいのですが、学部長就任のご挨拶にかえさせて頂きます。今後とも皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます

咲耶会の皆様へ

大阪外国語大学創立100周年・箕面新キャンパス整備事業にご協力をお願い

外国語学部は、2021年に現在の箕面市粟生間谷から同市船場東地区に移転することはすでにお伝えしたとおりですが、今年7月には、延伸される北大阪急行の最寄り駅の名称も正式に「箕面船場阪大前」と決まり、移転の実感が徐々に湧いてきたように思います。

この2021年という年は、大阪大学創立90周年ならびに大阪外国語大学創立100周年の節目に当たります。そこで、外国語学部では、周年事業の一環として、現在の箕面キャンパスにある大阪外国語大学記念会館に代わるものという位置づけで、学部創立100周年を記念した「大阪外国語大学記念ホール」を新キャンパスの研究教育棟内に施設し、これを国際シンポジウムや学会、講演会、市民フォーラムなどに活用して、学外の諸団体と一体となって「新たな知を共創する場」にしたいと考えています。

つきましては、外国語学部の新たな門出に際し、「大阪外国語大学記念ホール」の施設を中心とする「大阪大学箕面新キャンパス整備事業」の趣旨にご賛同いただき、以下に記す口座等に、募金という形での皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

咲耶会会長 少徳敬雄 外国語学部長 大内 一

▼寄付をウェブ/web上で行う場合

1. 大阪大学未来基金プロジェクト一覧を開ける。  
<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/project/>
2. 大阪大学箕面新キャンパス整備事業を選択しクリックする。  
[https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/foundation/?donate\\_purpose=96](https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/foundation/?donate_purpose=96)

いずれの場合も、クレジットカードの利用、銀行振込、コンビニ払いが可能です。手続きに際しては、それぞれの説明をよく読んでお願いいたします。

▼振込用紙を用いて銀行窓口で寄付を行う場合

寄付目的の欄に必ず「大阪大学箕面新キャンパス整備事業」とご記入ください。※同封の振込用紙をご使用ください。振込先は以下のいずれかになります。

三菱UFJ銀行 茨木支店 普通預金 0018316

口座名義 大阪大学未来基金

三井住友銀行 豊中支店 普通預金 7116183

口座名義 国立大学法人大阪大学(基金)学長西尾章治郎

大阪外国語大学100年史刊行—写真等提供のお願い

外国語学部では、大阪外国語大学創立100周年を祝う『大阪外国語大学100年史 写真で見る母校の歩み(仮称)』の刊行を計画し、咲耶前号において皆様に対し、同写真集に掲載するための懐かしい写真のご提供をお願いしているところでございます。

すでに多くの方のご協力により、現時点で、大阪外国語学校や外事専門学校時代の貴重なお写真を中心に写真資料が集まりつつありますが、残念ながら、まだまだ十分な数が集まったと言える状況ではありません。とくに、昭和45年から55年間の間の上八時代の写真や箕面移転後から現在に至るまでの写真が不足していますので、この時期の写真のご提供を宜しくお願い申し上げます。

写真集『100年史』の刊行は、当初の予定を変更して2021年秋頃を目指すことになり、2019年4月には編集作業を本格的に開始する予定です。したがって、2018年度内にできる限り多くの写真を集めておきたいと思っていますので、引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

写真集の構成としては、現時点での暫定的なものです。大阪外国語学校時代、大阪外事専門学校時代、大阪外国語大学上八時代、同粟生間谷時代、大阪大学外国語学部時代、日本語日本文化教育センター関係、語劇・間谷祭・夏まつり関係、クラブ活動関係等を考えています。編集作業の対象となり得る多数の写真をご提供頂けることを願っております。

ご提供頂ける写真につきましては、勝手ながら、著作権(コピーライト)の問題や肖像権の問題が生じないことをご確認頂いたものに限定させて頂きたいと思っております。また、①いつ頃の写真か、②場面の説明、③著作権・肖像権問題の不発生確認の有無について必ずお伝えくださいますようお願い申し上げます。

お手数ですが、以下に記す宛先に封書あるいは電子データにてご送付くださいますようお願い申し上げます。可能な限り電子データ資料(JPEG等)でご提供頂ければ幸いです。

<送付先>

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東8-1-1

大阪大学 言語文化研究科・外国語学部箕面事務室  
研究協力係「100周年写真担当」

Tel: 072-730-5013 Fax: 072-730-5009

E-mail: genbun-minoh-kenkyo@office.osaka-u.ac.jp  
(件名に「100周年写真」とお書きください)

\*疑問点等があればご遠慮なく研究協力係にお尋ねください。  
\*ご提供頂いた写真(紙媒体)は、写真集刊行後にお返しします。外国語学部あるいは咲耶会にご寄贈頂ける場合は、その旨をお伝えください。  
\*編集作業は外国語学部が主体となって行います。咲耶会に写真をご提供頂いた場合、編集作業の関係上、咲耶会から上記係にお渡しすることになります。

平成30年度総会・懇親会のご案内

日時: 平成30年10月20日(土)午後1時30分～午後6時  
会場: 大阪大学豊中キャンパス内 大阪大学会館  
大阪府豊中市待兼山町1-13 TEL 06-6850-5977

豊中キャンパスへのアクセスマップ



■豊中キャンパスへのアクセス

- 電車: 阪急電車宝塚線「石橋」駅(特急・急行停車)下車 東へ徒歩15分(坂道です)
- モノレール: 大阪モノレール「柴原」駅下車 徒歩約15分(平坦です)

※自動車入構可能・キャンパス構内に駐車可能です(正門からお入りください)(懇親会でお酒を飲まれる方は、運転されないようお願いいたします)

大学会館へのアクセスマップ



<第I部>

- 咲耶会総会: 午後1時30分～午後2時30分 於2階講堂
- 「咲耶出版大賞」授与式: 午後2時30分～午後3時 於2階講堂
- 講演会: 午後3時～午後4時 於2階講堂  
講師: 大阪外国語大学名誉教授 溝上富夫先生(大IP13/インド語学科1965年卒業) 現 関西日印文化協会会長(2009年～) 2018年、ヒンディー語教育と日印文化交流促進に対する長年の貢献により、インド政府から「Padma Shri(蓮華勲章)」を受勲。  
演題: 「神戸の土に還った戦前のインド人教師—創設期から戦後期にかけての外語史の断面—」
- 休憩(会場移動): 午後4時～午後4時20分



<第II部>

- 懇親会: 午後4時20分～午後6時(於1階アセンブリーホール) 懇親会費: 5,000円(当日会場にていただきます)  
※新卒業生会員(平成30年3月/9月卒業)・学生会員は無料です。未加入の学生については、会費として、1,000円をいただきます。  
※卒業後50年の会員には、記念品をプレゼントします。多数のご出席をお待ちしています。
- 参加ご希望の方は、同封のハガキにてお申し込みください。

<お問い合わせ>

咲耶会事務局 TEL & FAX : 072-728-2327  
E-mail : sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp



## 思い出の高槻学舎

恒成喜久子 (大 F6)

昭和29年(1954年)4月10日高槻学舎(高槻工兵連隊兵営の跡地)で大学入学

式が挙行される。入学者10学科(中国語、インドネシア語、インド語、ビルマ語、アラビア語、英語、ドイツ語、フランス語、イスパニア語、ロシア語)270名余りの内、女子学生は僅か13名。平澤俊雄初代学長の式辞後、入学者は専攻学科ごとに分かれる。フランス語学科の教室では、畠中敏郎主任教授の指示のもと、入学者宣誓書に毛筆で各自(25名)署名をする。入学初日に毛筆の署名とは驚いた。緊張もした。

入学者心得に、授業は4月14日から始まる。第1限授業は午前9時からと記されている前期課程の履修は高槻学舎で、後期課程は大阪学舎(当時上八学舎と言っていた。箕面学舎移転の年、1979年9月大阪国際交流センターとなる)で行うことになっている。前期授業の2年間で、専攻のフランス語を、畠中、中原、黒木、鎌田、ドルユイの各先生から、兼外英語として、甲本、林、山県、北山、羽田、グプタ、シュワブの各先生から、イスパニア語を國澤、山田先生から、エスペラント語を川崎先生から学んだ。

さすが外国語大学、語学教育は充実していた。また、前期教養学科として、教育原理、自然科学史、東洋史、西洋史、社会学、憲法学、哲学、経済学、生物学、数学、教育心理学を履修した。E.S.S.クラブにも入部していた。冷暖房の設備もない木造学舎で朝9時から夕5時半まで、よくも頑張ったものだ。冬の寒い日など、陽がとっぴり落ち薄暗い裸電球の下で5時限目の授業を受けたのが印象に残っている。



昔永井氏の城下町だった高槻城の跡地にある高槻学舎には、広々とした原っぱがあった。そこで1年に1度の行事、伝統の仮装行列が催された。体育祭の代わりにオリンピック祭と称して、各語部の1年生

2年生が合同で案を出し合い、全員が仮装して、フランス国家の歌を歌いながら、野原を練り歩く。フランス語学科では1954年5月20日「フランス人外人部隊」の仮装行列を、1955年5月29日、ルイ



14世やナポレオンなど歴史上の人物に扮して披露した。青春時代の忘れ得ぬ思い出となった。



## 大阪・ベルリン——私を育てた外大と上八学舎

市川 明 (大 D21 / 院 D6)

2018年7月25日。ベルリンの空は抜けるように青い。正午の気温は23度。例年のことだが夏はドイツに一月ほど「帰省」して研究と保養をしている。「永遠の恋人」と言っている。ドイツと深い関係を持ち続けさせてくれたのは、何よりも外大(大阪外国語大学)のおかげだ。そして私たちが育ててくれた上八(上本町八丁目)学舎への思いは尽きない。キャンパスと呼ぶにはあまりにも小さく、校舎も古かったけれど。

1968年4月にドイツ語学科に入学。入学してまず感じたのは、大学が自由でインテームな雰囲気だったことだ。学生数が少なかったこともあり、とにかく仲が良い。先生方も先輩たちも皆親切だった。入学してすぐに京都の植物園にクラスで遠足に行った(阪大の職員さんに「昔の国立大の学生さんて感じいい」と褒められた)。それから週一回テーマを決めてクラスで話しあおうということになった。安保などの政治的な問題もあった。クラブや授業で忙しく、皆が集まれる時間を保証してほしいと自治会に要求、教授会も認めて木曜3時間目がアセンブリーアワーとして、授業を置かぬ学生たちの時間となった。この制度は最近まで続いたはずだ。「言葉を学ぶだけでなく、広く文化を学び、地域研究をする大学に。そのために教員の確保を」という要求が熟成されていったのも、上八学舎の頃だ。



向かって前列右端が私で、三番目が写真の提供者の北田勉君。

1988年4月、教員として外大(箕面キャンパス)に戻った。背中をばちんと叩かれたら、上八学舎の頃の清掃のおばさんだった。「ひげ生やしとるけど、ごまかさへんで」。自由に伸びやかだったあの頃が懐かしい。そこで培われた厚い友情やしなやかな学問、反骨魂はいつまでも失いたくない。



## 上八キャンパスの記憶

言語文化研究科・外国語学部教授  
青野繁治 (大 C27/ 院 C12)

数年前後輩の一人から学生の頃撮った写真を手渡された。そのモノクロ写真からいろいろ記憶が蘇ってきた。

私が学生の頃、授業を受けた教室はB-11、12、13だった。木造三階建が、戦災で焼けて三階部分を削り二階建てにしたという。ガラスが割れた窓を画用紙で補修してあった。B-13教室から池のある中庭がよく見晴らせ、ベンチの学生と二階からよく言葉を交わした。中庭の植え込みは、歌声サークル「はばたき」がステージにしてミニライブをやっていた。B教室の1階は夜間部の先生の研究室があり、中国語の緒方先生、上神先生がおられた。



上神先生と言えば、LLの授業である。当時のLL教室はオープンリールのデッキに7.5インチのテーブを持参して声を録音したり、北京放送のニュースを聞いたり、金毓本先生の声の教材を聞いたりした。箕面移転後はカセットになり、今ではテーブさえ使わない。

新館西側の階段教室C-1では一般教養の授業を受け、ある年の大学祭では作家藤本義一氏の講演を聞いた。校舎の南側と西側にL字型に連なっていたのが新館で、南側は4階建、西側は4階までであったのか、印象がない。西側の1階に教務課があった。南側の1階に会計課があって、授業料を納付しに来た。新館南側の2階から上は各語学科の研究室で、中国語は4階に1研から3研までが並び、語学、文学、政治経済の各分野の先生がおられた。ちなみに4階東奥のトイレ横は筆者もメンバーであった「中国研究会」というサークルがロッカーで仕切りをつかって占拠していた。屋上にはバラックの院生控室があった。池のある中庭から地下に降りると、その先は生協食堂になっていた。

図書館はキャンパスの北西部の2階にあったと思う。座席毎にスタンドがあって夜も読書しやすくなっていたが、机は古く、手を載せていると木くずが剥がれて手に付いた。



南出口を出て、道路を渡ったところに南グラウンドがあって、体育の授業でよくソフトボールをした。グラウンド内は道路沿いにバラックの建物が設置されていて、ここで授業もされていたと思う。もともと別の教室にあって西洋人の先生が授業前に讃美歌を伴奏していたリードオルガンも、そこに移されていたと記憶する。

写真はホームページで公開しているのでも非ご覧あれ。  
<http://coufs.890m.com/>



## 箕面、粟生間谷の外大——最初から今まで

大阪大学名誉教授  
太田妙子 (学校医)

1979年(昭和54)秋、大阪外大が上本町から箕面粟生間谷に移転した。まだ工事途上だが図書館、A・B棟研究室・講義棟が完成し聳えている。後期からの授業が始まり、私は10月から週3日詰め学校医となった。保健室は当時図書館1階(現自習室)を間借り、そこで角・隅田両看護婦と浅井所長・太田医師の昼夜シフトで待機した。日々応急手当や健康相談、新施設で実施する学生定期健康診断の準備、近隣病院との連携などを模索した。同時に並行して保健管理センターの設計(管理棟2階)を構想し図面を描いた。昭和56年5月に完成した管理棟、以後三十有余年間、定年まで其処が私の職場となった。

留年生を含んだ昼夜学生、海外からの日本語留学生、寮生など文化・立場・背景も様々である。間谷30年間で在籍数は3000人から定員増の5000人まで膨張し、それから徐々に縮小していった。運動場は元来文字通り「谷」だったせいか雨が降るとぬかるむ。運動場で負傷した怪我は確かに治りにくかった。「土壌が悪い」との苦情で一部土を入れ替えたこともある。心強かったのは図書館と食堂の夜間対応、夜も明るく開館していた事である。夏は宵から夜10時頃まで櫺の中庭に学生の声か響いて賑やか…これぞ外大であった。

哀しいのは事件事故だ。バイク事故、海外からの輸入伝染病は毎年の事だ。学生寮内の消毒も経験した。その他病気や不慮の事故で若く散った学生達は忘れ得ない。

2007年(平成19)阪大との統合で夜間は廃止となり新阪大生の生活拠点石橋へ移っていった。昨今、間谷の夜はめっきり静かになった。時代は流れやがて来る2021年には「外国語学部」再びの移転が待っている。いよいよ「箕面船場」からの新しい船出だ。



◀初期の頃のスペイン階段



現在のスペイン階段 ▶



もみじ寮の思い出

豊田美津子 (大IP31)

1979年4月、上八学舎に入学した最後の学年の学生として入学しました。

合格発表の日に秋に移転する箕面キャンパスに新しくできる寮の入寮決定通知が届き、合格電報を頼んでおらず、不安な気持ちで過ごしていたので翌日届いた合格通知より嬉しい知らせでした。

夏休み明けの秋から箕面キャンパスでの外大生活が始まりました。もみじ寮は翌年春に完成したB2棟は建設中で、1棟のみでのスタートでした。

新しい部屋は個室でベッドと小さな本棚とスチール棚が備え付けられていて、冬の寒さ対策に、床には各自2畳くらいのカーペットを敷き、電気ストーブやこたつを置いていたことを思い出します。

寮は陸の孤島で、交通手段はバスのみ。本数はかなり少なく、最終バスの時刻も早かったため、コンパなどで遅くなると帰ることができないため、下宿生の友人宅に泊ってもらうことが多かったです。北千里から寮まで徒歩で帰って来たという話はよく聞きました。バスの本数が少なかったため、間谷住宅の住民の方々のために運行されていたミディバスという北千里との間を運行していたバスを利用させていただくことも多かったです。

入寮した翌年の5月の休日にヒンディー語学科の先輩に奈良へのハイキングに誘われ、寮の新生入生に声をかけたら、留学生も誘ってみようということになりました。



当日の朝、留学生寮の1階で全館放送できるマイクで誰かが英語でアナウンスしたら、セネガル、インドネシア、スリランカなどからの留学生がロビーに集合し、参加してくれることになりました。大仏殿などを拝観し、春の奈良を散策して夜バスで箕面の寮に帰ったことを思い出します。



私にとっての外大生活の原点

五十畑浩平 (夜F37)

2004年に3年次に編入することが決まった際、外大での2年間は、単にその先にある大学院への通過点ぐらいにしか想像していなかった。しかし、入学と同時に入った寮での出会いが私の予想を大きく変えた。

みんなよりも年上で扱いづらい編入生にもかかわらず、寮に住む同じユニットのメンバーは、ごく自然に接してくれた。それだけではない。彼らを通して、日を追うごとに、知らず知らずのうちに外大生活にどっぷりとはまっていたのである。

当時は「間谷祭」と呼ばれた語劇祭。たまたまその実行委員長がすぐ隣に住んでいたこともあり、気づいたら実行委員のひとりになっていた。また、これが縁で、それまでは「休眠」していたフランス語劇の復活にも携わるようになった。さらに、寮に住む多くの留学生たちとも交流するようにもなった。こうして、ただの通過点だったはずの外大生活は、寮のおかげで、それまででない濃密な思い出が詰まったものとなった。

と、なんとも素晴らしい美談で締めくくりたいところだが、やはり、もうひとつの「事実」を伝えなくては「良心の呵責」に苦しんでしまう。「時効」だと開き直りつつも、ある程度現在の立場も考慮し、できる範囲で「告白」すると、私が属したユニットは後世にも語り継がれる「悪名高い」、極めて近所迷惑な存在でもあった。「借りる」と言って、まわりのユニットから鍋を無断で拝借。誰かの誕生日には「ユニット飲み」という名の宴会を行い、夜中ときには朝方まで大騒ぎ。きわめつけは、室内で花火をやり火災報知機が鳴って大事件に…。

もちろん、ことあるたびに「おとがめ」があったものの、それでも、現在では到底考えられないまわりの「寛容さ」に見守られ、私どもは、一人ひとりなにも飾らず自分らしくのびのびと育つことができ、深く密接な人間関係を築くことができた。そんなユニットからは、幸か不幸か、多様な人材が社会に輩出されている。



向陽寮と私

西畑宏紀 日本語専攻4年

この度は私が3年間暮らしている学生寮、「向陽寮」について私見を交えて紹介したいと思います。

向陽寮は箕面キャンパス敷地内にある男子寮で、現在約100名の男子学生が生活しており、家賃は月額約4千円と破格の値段を誇っています。近年では民放の某番組の学生寮特集で取材を受け、奇妙な寮生の生態が注目を集めました。普段は緑に囲まれた落ち着いた雰囲気の中で、生活しています。ワラビ、イタドリ、ヤマモモなどが周囲に自生しており、採って食べることができる里山のような環境は私の地元を思い出させます。

私は高校時代から、学生寮に入りたいと強く希望しており、今を去ること3年前、入学と同時に地元の和歌山県古座川町を離れ、念願の寮生活を始めました。入寮の日、管理人からの清掃を促す注意喚起も虚しく、荒廃を突き進む我がユニットを目の当たりにし、その退廃的な美しさが私の心を鷲掴みにしました。五畳という部屋の狭さは気になりつつも、このマイクロな世界で実りある大学生活を送ることを胸に誓ったのです。

世界は古生代二畳期、中生代三畳紀を経て、そして私はこのマイクロで混沌とした大学生活、新生代五畳期!! にたどり着いたのでした(笑)。

それからというもの、外国語学部の学びを通して入学時はスカスカだった本棚も質、量ともに膨れ、その上には友達からもらった舶来品が並んで、五畳の一室を彩っています。

来年度、私は就職を機にこの寮を離れるのですが、今より広い部屋(8畳くらい)に住もうと目論んでいます。社会の荒波という新生代八畳期においても、外語で学んだこと、寮生活で培ったことを忘れず挑んで行こうと思います。



寮生と年越しそばを食べた時の一枚



EnaLloid

ENNA  
Craftsmanship makes a "difference"

Ena Optical Mfg. Co., Ltd.  
恵那眼鏡工業株式会社

〒508-0101 岐阜県中津川市苗木 4827-48  
TEL : (0573)-67-2211 (代)  
FAX : (0573)-67-2214  
E-mail : info@ena-gf.jp



夕暮れ時のヨーテボリ市内

私が初めてスウェーデンに留学したのは2004年のことで、大学の3年目が終わったタイミングで1年間の休学をしてスウェーデンへ渡り、現地の国民高等学校に通いました。

国民高等学校とは、スウェーデンの高校と大学の間にあたるような教育機関です。

大学ほど専門的な美術の授業ではなかったけれど、美術科のコースに入った私は、デッサンや彫刻、陶芸の他、羊毛をフェルトにして形を作ったりと様々な授業を受け、帰国したくなる程楽しい毎日を過ごしていたことをよく覚えています。

それでも大阪外国語大学に復学する春が近づき、帰国した私はどうしてもまたスウェーデンに戻って、今度はデザインが学べる大学に入学したいという気持ちが抑えられず、大学卒業後の2006年夏より再びスウェーデンへと渡りました。

スウェーデンの大学の学部に入るには、現地の高校卒業程度のスウェーデン語(国語)の履修が条件。そのために一年間は語学学校へ通い、大学の入学試験を経て、晴れて2007年よりヨーテボリ大学付属HDKデザインクラフト大学へ通うことに。

外国人の多い大学院とは違い、学部はほとんどがスウェーデン人。デザイン科では講義だけでなく制作やプレゼンの時間も多く、わからないことがあると先生やクラスの友人が親切に教えてくれました。皆が本当に素直で純粋な人たちがばかりで、スウェーデン人ばかりの環境でも外国人として特別扱いされるのではなく、クラスの皆と同じように交友関係を築けたことが、何より嬉しいことでした。

時に夜遅くまで大学に残って制作をしたり、友人の家と一緒に晩御飯を食べ、皆でボードゲームをしたり、休みの日には森へキノコやベリーを摘みに行ったり、湖で泳いだり。今思うと本当にかけがえのない時間でした。



### 青山佳世 (大SD54)

2001年大阪外国語大学入学。2007年ヨーテボリ大学付属HDKデザインクラフト大学へ入学、グラフィックデザインやテキスタイルデザインを学ぶ。帰国後はアパレルブランドでの経験を経て、2012年より様々な企業の商品開発に携わるフリーランスとして活動を開始。2014年からは自身のブランド KAYO AOYAMAにてオリジナルの生地や雑貨を展開する。www.kayooyama.com

現地の大学在学中には、Sandbergという歴史ある壁紙会社にてインターンシップとしてデザインの仕事を体験する機会も頂きました。大学の授業で制作をするのとは違い、商品としてデザインの完成度を上げていく作業にはとても学びが多く、一種類の壁紙を作るのに、こんなに時間と労力、コストをかけているんだということに衝撃を受けました。

ある日、HDK大学の先生より、「日本にはこんなに素敵な生地を作るアパレルブランドがあるよ」と教えて頂いたのが、手描きの図案でオリジナルの生地を作り、洋服を展開する日本のブランドでした。手描きの柄により優しく情緒溢れる生地から洋服作りを行うそのブランドと、その後運よくご縁を頂くことになり、帰国後3年間働いた後に独立、現在も生地などの柄を描く仕事をしています。

スウェーデンの豊かな自然の美しさや、壁紙や生地が暗い冬でも家の中を明るくしてくれること。私のデザインのベースには、いつもスウェーデンでの経験があります。

今年の夏にはストックホルムで行われる展示会に初めて参加します。再びスウェーデンの人たちに私の柄が見てもらえることが、今からとても楽しみです。



去年、ヨーテボリ大学付属HDKデザインクラフト大学を再訪しました。



大学の構内にて



私は父親の後を継いでヨガ教師になるために外大ヒンディー語科に入学し、3年生の夏から1年間インドに国費で語学留学しました。

留学先の学校は全寮制の学校で、寝食を共にした寮生の顔ぶれは実に多様でした。印僑三世でインド人なのにヒンディー語を話せない人や、反対に教師より上手な印僑の人、遣り手のインド航空の社員、意識の高いヒンディー語教師、ヒンズー教や仏教の僧侶、戦争経験者でガタイの良いカザフスタン人、早稲田大学の女子学生、北京大学の中国人女子学生など、本当にいろんな人がいました。

そんな留学生活の中で最も思い出に残っていることは、皆が嫌がる寮食の運営当番を任されたことです。寮食の運営は、当初学校側がしていましたが、横領が発覚しストライキで学生主導に変わり、(インドは事あるごとにストライキが起きます)その後も留学生の間で責任者の変更が相次ぎました。

そんな誰もが敬遠する寮食当番を「スキャンダルと横領がないこと」を理由に日本人である私に押し付けられました。ストライキに参加すらしていない私にとっては寝耳に水の、ストライキの尻拭いです。

寮食当番は、当初の語学留学というリッチな目的とは真逆で、泥臭い、その日を生き抜くための戦いでした。誰もが寝静まる朝5時に起き、一人間屋の競りに行き食材調達をし、7時に朝食を出し、皆が学校に行く前に疲れきって一休みし、また昼食と夕食の配給に心配するという日々でした。授業との両立は大変でしたが、一度引き受けるとNOと言えないのが日本人の性。周囲のサポートもあって、何とか寮食を切らすことなく継続できました。留学当初は語学習得が目的でしたが、寮食当番という回り道をする中で、結果として語学力に加えて生命力もついた留学生活でした。



世界遺産タージマハル

### 福山泰海 (大H59)

2006年大阪外国語大学地域文化学科ヒンディー語専攻入学。2008年Kendriya Hindi Sansthan(インド中央語学院)にインド政府の国費にて留学。2011年3月大阪大学外国語学部ヒンディー語専攻卒業後、株式会社エクセディ入社。インド進出プロジェクトに配属となり、新会社と新工場設立のため2011年7月一人目の社員としてインドに赴任。同年9月に設立されたEXEDY Clutch India Pvt Ltdにて2015年11月本社帰任まで、購買課長、営業課長兼任として4年4か月間インドに駐在。

＜自分の人生に対する影響＞  
結局、私はヨガ教師にはならず、大阪本社の自動車部品会社に就職することになりましたが、インド留学を通して得た「慣れない土地で何とかやりきる力」は、今も私の中に生き続けています。

入社してまもなく、新しく設置されたインド進出に関わる部署に大抜擢された時も、持ち前のやりきる力で新会社設立の一助となることができました。

今は帰任して、残念ながらインドともヒンディー語とも直接関わることはないのですが、仕事や旅先で訪れたピンチの際も落ち着いて行動できる背景には、

インド留学での経験があるのではないかといつも考えています。



留学生寮

## 通訳者に求められること

会議通訳者

ランプキン朋子(澤田) (大E22)



バルパライソ(チリ)での議員会議の休憩中に(2016年)

英語を「やりたい」という気持ちは小さい時からあった。おしゃべりで「言葉」が好きだったのかもしれない。単純に、「英語がカッコよかった」から。これは今から50年以上前の方が、一般的に強かったのではないだろうか。しかし、正直なところ、自分の職業が「通訳」、「会議通訳」であることを素直に誇りに思っていないところがある。一つには「でもしか」通訳だから。外大(当時)を卒業後、東西センターの奨学金で、ハワイ大学へ行ったのも、英語をもっと上手になりたかったからだけで、アカデミックな野心など毛頭なく、そのあと何をやりたいのか、恥ずかしながら、はっきりした考えはなかった。学生をやっている合間に「翻訳」や「通訳」の仕事を頼まれ、たまたま当時ホノルルに同時通訳ブースのある会議施設があったことから、「拾って」もらえた。初めて「同通」をやった前夜は一睡もできず、1時間足らずの仕事が終わった後は、ぐったりしていたのを思い出す。

その後、1989-90年京都に滞在したが、当時のバブル景気から通訳需要が旺盛で、仕事にありつけた。東京の通訳諸先輩との繋がりもでき、アメリカに戻ってからも仕事が増えた。またその頃(日本に行く前だったか)すでにロンドンベースで仕事をしていたアメリカ人の友人の勧めで国務省の通訳試験を受け「国務省契約通訳者」になった。それやこれやで、今日に至っている。

国際政治の場での、英語通訳の必要性は事実上既にかなり減っているし、今後はゼロになるだろう。単なる言語の転換者としての通訳はどんどん意味がなくなってくる。ただ、コミュニケーションの助け役、という意味では、あるいは果たす役割が増えるかもしれない。最近とみに、日本語と英語の距離・壁が大きいと痛感することが多い。日本の経済活動が「国際化」する中でこれは予想以上に大変なことだろう。

コミュニケーションの助け役、というのはどういうことか？これはある言葉を聞いたときに、それが聞き手の頭、または心にどういう考えや感情を想起させるか、聞いた人が意識する間も無く何を感じるか、をとっさに察知して、それを踏まえて両者の間の意思の疎通を解きほぐす役割をする、ということかと思う。表面的な言葉の置き換えではなく、踏み込んだ理解が必要になる。発された言葉の辞書的な「訳」ではなく、日本文化・言葉の枠の中でそれに相当する表現を見つける。これを瞬時に行うのが「通訳」の仕事であろう。聞いた人が「腑に落ちる」「納得する」「あそうか!」「なるほど」と思う、こういう連鎖を起さなければ通訳としての付加価値がないと思う。厳しいことを言うようかもしれないが、特に英語と日本語の通訳者にはこれが求められる。かつ、この作業には通訳者の「勝手な」創作が介入してはならない。難しいバランスである。

## 略歴

1974年大阪外国語大学英語学科卒、ハワイ大学アメリカ学修士。  
会議通訳者として、国際会議(APEC, G20, WTO, ILO, COP, IPU、国連総会など)、政府関係、民間企業海外IRなどで活躍。2014年4月下旬に当時のオバマ大統領が国賓として来日した折、皇居で天皇、皇后両陛下に拝謁したときの通訳を務めた。その時の模様は下記よりアクセスできる。  
<http://www.apimages.com/metadata/Index/Japan-Obama-Asia/ded9d36e037045088cca6d253f7d0639/6/0>  
また、2015年4月29日、安倍首相が、米国連邦議会上下両院合同会議で演説をした日の、オバマ大統領との日米首脳会談での通訳も務める。

## 「意志あるところに、必ず道は開けん」

片田 聡 (大DM36)



大阪外大に入ることは小学一年生の時に決まっていた、と言うのは大袈裟かもしれないが、いつかは海外と思い始めた年である。私が小学一年生だったのは1970年、つまり、「大阪万博」の年。ちなみに、私は4歳の時から、千里に暮らしており、万博にはほぼ毎週通った。初めて世界と海外の人と触れ合ったイベントだった。それ以来、何時かは海外と思っていた。会社勤めは決めていたので、配置希望は海外ですと言わんばかりの外国語学部を選ぶのは当然のことで、大阪外大を選んだ。専攻を何語にするかは、ライバル校たる東京外大に唯一なかったデンマーク語を選んだ。デンマーク語は小さな学科だったことも前後3年位は顔見知りになれる位の心地よい学科だった。私は全くの劣等生だったが、それでも学科は好きだったので、学科でのイベントには積極的に取り組んでいた。卒業時、菅原先生から「成績は兎も角、君の様な人がいてくれたのはありがたかったね」と言われた時は嬉しかった。そして、2015年開催されたデンマーク語開学50周年記念行事の実行委員会でも奮闘した。

さて、バックパッカー旅行を行うため1年間の留年を経て、1988年大阪商船三井船舶(現:商船三井)に入社した。ドル収入が大半の業界は、80年代の急激な円高により、世の中バブルの中、業界が構造不況に喘いでいた。初任給も安く、人気もなかったが、赤字続きにも拘わらず、社員はいい感じでのんびりしている。まあ、給与は安いけど、不況だから暇なんだろうと、また、採用人数が十数名と少なく、海外語学研修も4人に1人は行けるので、この会社にお世話になることとした。

最初の配属はアジア課で、インド航路担当で、ちょうどコンテナ化が進むころだった。そして、隣の中国課の方から、中国語に手を挙げると言われ、91年から中国語研修留学に行った。今の中国とは全く違う中国である。それから、名古屋支店、タンカー部門で働き、次に自動車船部門に移り、アフリカ・中近東を担当した。その後は、東南アジア・中国での自動車物流プロジェクト担当となり、事業開拓・立ち上げの業務に主に携わり、中国で2社3件、インドネシアで1社2件のプロジェクトを立ち上げた。それから、シンガポールに異動、主にここでも始まるインド事業の準備を行っていた。

そして、2007年インド・チェンナイに赴任した。一人で赴任し、駐在員事務所を設立、翌年トラック輸送会社、さらに翌年完成車向け港湾事業会社を立ち上げた。最終的には200名規模の人員を抱える事業となったが、トラブルのない日はなかった。突然のドライバーのストライキ、死亡や横転事故、職員から警察に訴えられたり、資金が枯渇したり、本当に厳しい状況であった。しかしながら、それでも伸びる市場は面白かった。また、日本人社会も小さく、日本人会副会長や商工会事務局長なども担当した。

2011年に日本に戻り、関係会社の不採算部門の立て直しなどで派遣され、5年でグループ企業など3か所に出向した。そして、2017年新たにトルコに国代表事務所を設立し、またもや、一人でトルコにやってきて、現在に至っている。担当はトルコ以外にもエジプト、ウクライナなどの周辺国も含むが、有望なエリアである。インドの時の様に事業を新たに展開すべく奮闘中である。着任1年が過ぎたが、なかなか感度は良く、本年度中には、当地で事業が行えると確信している。

まだまだトルコで勤務する予定です。当地でも卒業生の集まりを行っているのも、もしイスタンブルに着任されたり、来ることがあれば、是非、小職まで連絡を下さい。

(Eメールアドレス: satoshi.katada@molgroup.com)

2020年は東京でオリンピック開催、しかし、私にとっては、大阪万博50周年の年。そして、再度の万博が大阪で行われるかも知れない。その原点に向けて、フルスロットルで飛ばしていきたい。

イスタンブルでの大学OB会:  
エムレ佐喜子さん(大A32)、山口綾さん(大TR54)、河野雅子さん(大TR55)

## 略歴

1988年大阪外国語大学デンマーク語学科卒業、大阪商船三井船舶(現:商船三井)入社。定航部アジア課、中国語学研修、名古屋支店、油送船部プロジェクトグループ、自動車船部中東アフリカグループ、同部アジアプロジェクトグループ、シンガポール駐在、インド駐在、営業調査室、イースタンカーライナー、商船三井近海、名門大洋フェリー出向を経て、現在、商船三井トルコ国代表としてイスタンブル駐在。



# 「言葉の力」

もう、あの「外大」を離れて15年になる。その間に、法人化や阪大との合併があり、「阪大外国語学部」となった現在、「外大」はもう存在しないのであろう。しかし、今でもなにがしらかの魅力を覚えるのはなぜだろうか。おそらく、「外大」が「言葉を教えていた」からであろう。

私ごとになるが、りんくうタウンに位置する「国際交流基金関西国際センター」で今も仕事をしている。ここは、外国人に日本語を教える場である。世界中から、高校生から専門家まで、幅広い人材が日本語を学びにやってくる。日本語を学習してもらい、日本を知ってもらい、帰国後はそれぞれの国で日本との架け橋となってもらうことを目的としている。日本の文化外交の一環を担っている機関といえよう。設立から20年を経過しているが、この間、1万人以上を受け入れ、修了者は地球の隅々で活躍している。中には、駐日大使として外交の第一線にいる者もいる。

この仕事で、私が感じるのは「言葉の力」である。世界の言語の中でも難解な日本語に挑戦した研修生は、修了式後の恒例の懇親会では、日本語学習の面白さと日本文化の奥深さを口を揃えて語る。言葉は人間の思考を高め、人間と人間を結びつける強い力を備えているという当たり前のことを、今このセンターで再認識している。

グローバル時代を迎え、日常的に異文化が混じり合う今日、「言葉(外国語)の学習」ほど重要なものはないと考えている。とりわけ、人間の成長過程において、20才前後に外国の言葉を学ぶのは、いわゆる教養を身につける最高で最良の方法である。「外国語学部」では、それぞれの言語教育に不断の力を注入していただきたい。言語とその言葉を支える知識(文化)を徹底的に叩き込まねばならない。



元 大阪外国語大学学長 / 大阪外国語大学名誉教授  
赤木 攻 (大TV15)

その上で、学生は専門性を求めて修士課程に進んでもらいたい。阪大には、文系理系を問わず、きわめて多様な修士課程が用意されている。学部で学んだ言語や知識を生かして、専門性を身につけてもらいたい。文学研究科や言語文化研究科などだけではなく、人間科学研究科、国際公共政策研究科、情報科学研究科などといった分野でも、面白いテーマが待っているにちがいない。たとえば、徹底的に英語力をつけ、国際公共政策研究科に進み、国際公務員や外交官を目指して欲しい。さらには、スワヒリ語を学び、医学系研究科に進み医者となり、アフリカに赴き医療に従事して欲しい。

私は外大の弱点は単科大学にあると常々考えていた。せっかく、大きな力を秘めた言葉(教養)を修めながらも、専門性を学ぶ場がなかった。グローバル化が進む21世紀では、やはり専門性が必要である。「外国語学部」では、全員大学院進学制(学部・院接続制)が検討されなければならないまい。また、文理融合の人材養成計画は、阪大だからこそ可能となる。他に存在しないユニークなグローバル人材養成計画を具体的に計画し、個性を有した学部へのさらなる成長を期待する。せっかくの「言葉の力」を、合併のシナジーとして生かさねばならない。



白象会六〇周年記念出版会『白象の歩み 大阪外国語大学におけるタイ学六十年』(2010)に寄せられた約60名の卒業生のエッセイは、「言葉の力」で満ち溢れている。

白象会六〇周年記念出版会『白象の歩み 大阪外国語大学におけるタイ学六十年』(2010)に寄せられた約60名の卒業生のエッセイは、「言葉の力」で満ち溢れている。

# 「おもてなしシニア隊」® 募集

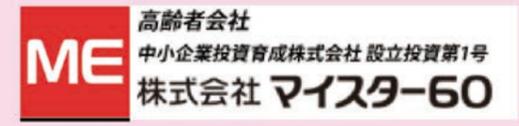
## 年齢は背番号 人生に定年なし®

昔取った杵柄で、今までの海外経験と語学スキルを活かしてみませんか？

年齢・性別・居住地域は問いません

アテンドサービス、スポーツイベントの手伝い、語学研修の講師、貿易事務など仕事の需要に応じて都度ご紹介いたします。

1990年に創業の、主にシニア人材を対象とした人材派遣・人材紹介の会社です。



有料職業紹介事業許可番号 13-ユ-303702  
労働者派遣事業許可番号 派 13-304122

<http://www.mystar60.co.jp>

TEL 03-6431-9362 (並木・井上)  
TEL 06-6458-8620 (杉浦・三木)  
お気軽にお問合せ下さい

## テレビ新聞(朝日、毎日、読売、日経、文藝春秋等…)で再々報道

### ♡♡♡♡♡ ご結婚、お茶飲友達 <sup>60才以上のみ</sup> もご紹介 ♡♡♡♡♡

35周年の本年11月迄、大阪外大、阪大、神大、府立北野高校卒業生や職員、及び旧横浜正金銀行関係者は、登録料免除しております。(※横浜正金銀行とは、戦前日本唯一の外国為替銀行。全株天皇家所有。戦後東京銀行となった)

本年で35年の実績。非営利、成立礼金不要… **無限の会・ゆうゆうM** “類を見ない”と言われる良質会員、信用と実績の会。

入会者は全員お写真3枚、住民票に加えて役所発行の独身証明(なければ戸籍謄本または遺族年金証明)の御提示が必要です。必ず電話予約の上、おはこび下さい。

入会資格：男女20才以上の配偶者のおられない方  
入会登録料：¥10,000 1ターム会費(4カ月毎に前納)：¥8,000 計 ¥18,000  
見合当日：¥5,000

紹介方法：入会同時にカード閲覧の上、三人選んで個別見合申込



主宰者 前川 博子 神戸市中央区脇浜海岸通3-2-7号館713 Tel 078-222-8520  
フランス語学科14回卒 大阪市西淀川区花川1-4-32 Tel 06-6474-7110  
阪外大・阪大関係者は主宰者携帯 080-8306-6890へ直接お電話下さい。

トルコ語専攻の今

藤家洋昭

大阪大学 言語文化研究科 准教授  
外国語学部 トルコ語専攻代表

トルコ語専攻では、この春、ネイティブの新しい先生として、セバル・ディリック先生(以下、セバル先生)をお迎えしました。セバル先生は、トルコ語の方言研究で博士の学位を取得されましたが、もともと教育学部のご出身で、外国語教育の方法論もしっかり身につけておられ、外国語学部トルコ語専攻の先生としてまさに理想的です。

日本人スタッフの方は、トルコ語専攻設立時からながらく教鞭をとってこられた勝田茂先生が数年前に定年退職され、新たに宮下遼先生をお迎えして、専任教員は、大澤先生、宮下先生、藤家になりました。宮下先生のご専門は、トルコ文学(史)で、文学の研究のみならず、作家としても活動されています。

現在のトルコ語専攻は、毎年約20人ほどが入学してきます。さらに、他の専攻語と同じように、日本語専攻の学生が専攻語実習に加わります(が、今年の1年生のクラスには日本語専攻の学生はいません)。

1,2年生の専攻語実習については、基本的に、文法を宮下先生、講読を大澤先生、作文と会話をセバル先生、LLを藤家が担当しています。外大時代からLLは一貫して藤家が担当していますので、トルコ語専攻の卒業生のみなさんの何人かから、ヘッドセットを付けた姿がいちばん印象に残っているとされたことがあります。ですので、ここで少しLLの思い出を書いてみたいと思います。

LLというのは、専用の教室、つまりLL教室で授業を行います。LL教室の各学生の机には録音再生装置が備え付けられています。この装置は、初期はオープンリールの巨大なものだったのですが、私が授業を担当しはじめたころは、カセットテープでした。カセットテープがないと授業ができないので、「カセットテープを持ってこなかった者は出席扱いにしない」と履修案内に明記したことから、毎回何人かは、その日買ったばかりと思われるカセットテープの包装をはがしていたのを覚えていています。

このように、最初はカセットテープを用いていたわけですが、世はデジタル時代。LLもメディアが進化してデジタル化され、カセットテープをもってくる必要もなくなりました。

現在のLLの授業風景を写真でご覧ください。



ロシア語専攻の今

上原順一

大阪大学 言語文化研究科 教授  
外国語学部 ロシア語専攻代表

みなさま、こんにちは。ロシア語教員の上原順一と申します。ロシア語専攻の専任教員は、林田理恵、神山孝夫(兼担)、藤原克美、横井幸子、シビトゥーニナ マリーナ、上原です。多くのご卒業生は、A棟8階に教員の研究室があったことを覚えていらっしゃると思います。かなり見晴らしの良い場所でしたね。現在は、B棟とE棟に研究室があります。また、専任教員以外に授業を担当してくださっている多くの先生方がいます。

授業の種類としては、1・2年生の「実習」、3・4年生の「専攻語演習」がロシア語学習の中核的存在です。2~4年生の「講義」、3・4年生の「演習(ゼミ)」で、ロシアの研究をします。1年生の授業は豊中キャンパスで、2~4年生は箕面キャンパスで開講されています。

ここ数年、学年末に主として1年生と2年生が「ロシア連邦教育科学省認定ロシア語能力検定試験」を受けています。1年生は基礎レベル、2年生は第1レベルです。科目は文法・語彙、読解、聴解、作文、会話で、ロシアから来てもらう専門家のもとの受検します。初対面の先生が担当する面接方式の会話試験に臨む学生さんは、さぞかし緊張することでしょう。合格したら、なかなか格好良い証明書が届きます。

秋には、咲耶会が経済的援助をくださっている外国語学部語劇祭が予定されています。つい先日、ロシア語の学生さんからも「やるぞ!」という声をもらい、今年のロシア語劇がスタートする見込みです。先輩のみなさま、楽しみにしてください。

卒業後の進路はさまざまです。ロシアに近いお仕事もあれば、そうでないお仕事もあることでしょう。多彩な趣味にロシア語を活かす人生もあると思います。どんな場合でも、私たちの専攻で学んだ皆さまが、ときどきは「あのときは楽しかったなあ」と思い出してくださることが、教員として一番の幸せです。



レベル認定証・教科書をもつ学生たちです。



2009年8月中頃のA棟8階です。この数週間後に、共同研究室1室はE棟に移転し、もう1室は廃止されました。

新しい高度外国語教育全国配信システムは寝て待つ!?

小島一秀

サイバーメディアセンター 講師

大阪外国語大学と大阪大学との統合における目玉プロジェクトとして、2007から2011年度にわたって「高度外国語教育全国配信システムの構築」(図1、<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/flc/>)が進められました。これにより、20言語を初級まで一人で学べるeラーニング教材が完成し、無料で公開されています。非常に大規模で困難な開発でしたが完成することができました。関係の皆さまには、ここで改めてお礼申し上げます。



図1 高度外国語教育全国配信システムの構築トップページ

完成から6年が経過しましたが、現在でも、外国語学部の授業で重要な役割を果たしていますが、それだけでなく、外国語学習の重要なインフラとなっているようで、停止すれば、瞬間に学内外から問い合わせがやって来るような状況です。

しかしながら、急速に普及したスマートフォンへの対応不足、教材の構成変更の困難さという大きな課題があることは、プロジェクト推進時からわかっていました。そのためには、パソコンでもスマートフォンでも再生できる映像・音声の掲載方法が必要なのですが、同じ内容のデータを複数用意するような地道な努力をしても、完成には程遠い状況でした。教材の自動レイアウト機能も必要でしたが、その実現に適したある技術要素は廃止に向かっていました。eラーニング教材開発に必要な知識は非常に多岐にわたるため私にも至らないところが多々ありました。

完成から4年目、教材の改修は行っていましたが、寝て待っていた!課題解決に再び挑戦することにしました。パソコンでもスマートフォンでも再生できる映像・音声の掲載は容易になっていました。教材の自動レイアウトに適した技術要素は、廃止が廃止されていました。私の別件で得た知見も活かせることがわかりました。さらに、パソコンとスマートフォンで見せ方を変える技術要素の発展など、結果的には、寝て待った!効果は絶大でした。



図2 組み直したロシア語教材

その後、言語社会専攻様からの予算により膨大なデータを編集するアルバイトチームが実現し、トルコ語、ロシア語(図2)、ビルマ語の教材を、新しい形態に組み直し、スマートフォンでも

閲覧可能となりました。親身に相談に乗っていただいた岡田新先生、映像・音声データの相談(図3)に乗っていただいた並川嘉文先生に、こを借りてお礼申し上げます。

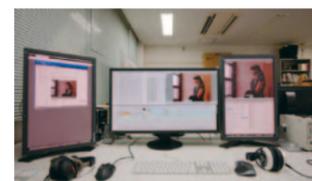


図3 映像データの調査と変換

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム(MLE)

大内 一

大阪大学言語文化研究科教授・外国語学部長

マルチリンガル・エキスパート養成プログラムは、文系部局がそれぞれの専門分野の授業を提供し合うことをとおして、世界の言語とその地域社会に関する専門的知識と文系諸学の専門的な方法論の両方を身につけた有為な人材、多言語・多文化に精通し、現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を備えたグローバルに活躍できる人材を育成するための部局横断的な教育プログラムです。

現在実施されているMLEの主たるプログラムは、文学部、人間科学部、法学部、経済学部が外国語学部の学生のために提供する人文学(グローバル・アジア・スタディーズとグローバル・ユーロ・スタディーズ)、人間科学(共生の生態)、法学・政治学および経済学・経営学の5つのプログラムと外国語学部が文学部、人間科学部、法学部、経済学部の学生にたいして提供する英語・英米文化学プログラムとスペイン語・スペイン文化学(ショートプログラム)の2プログラム、計7プログラムが実施されています。言語・文化プログラムについては、文系学部のニーズを勘案しながら徐々に多言語化することを目指して鋭意検討中です。

上記プログラムは今年度から大学院プログラムとしても運用されており、文学研究科、人間科学研究科、法学研究科、経済学研究科、言語文化研究科、国際公共政策研究科の院生は、これらを大阪大学大学院副専攻プログラムとして履修することが可能です。

この他、学部生・大学院生と教職員を対象に、各キャンパスにおいて、国際学会での発表を念頭に置いた英語プレゼンテーションの個人指導や英文添削指導を行う「アカデミック・イングリッシュ・サポートデスク」をMLEとして開設しています。

大阪大学では学部レベルの副専攻プログラム制度が存在しませんが、このMLEは事実上、文系部局間の学部レベルの副専攻プログラムとして機能しています。理系文系を問わず、学部レベルの副専攻プログラム制度が導入される先駆けとしてこのマルチリンガル・エキスパート養成プログラムが位置づけられることを期待すると同時に、大阪大学全体に多言語・多文化理解の輪が広がり、真の意味でのグローバル人材を養成する環境が整うことを祈念します。

「語劇祭を盛り上げたい！」 齋藤真里奈



大阪大学外国語学部ポルトガル語専攻2年  
2018年度語劇祭 実行委員長

今年度の語劇祭実行委員長を務めています。ポルトガル語専攻2年の齋藤真里奈です。

語劇祭は、外国語学部の私たちが励んでいる語学学習の成果を、学内外の人に披露することのできる一番の行事だと思っています。興味のある言語や普段耳にすることのない言語まで、さまざまな言語に触れることのできる絶好の機会です。言語を勉強したり、言語に触れることが好きな私にとって、とても魅力ある行事です。しかし残念ながら近年は語劇祭への来場者数は減ってきており、学生側も積極性を失いつつあるように思います。とても素敵な行事であるから、せつかくやるならもっと多くの人に楽しみながら参加してほしいと思っています。だから委員長として、委員会のメンバーが和気あいあいとした雰囲気運営準備を行えるようにと心掛けています。

私は昨年度、役者として語劇祭に参加しました。そしてポルトガル語が母語であるブラジル人の知り合いが当日見に来てくれたのですが、上演後私のもとに来てとても良かった、ということ伝えてくれました。それ以降、私たちは仲良くなり、日本語を私が教えてあげたり、逆にポルトガル語の勉強を助けてもらったりする仲になりました。このように、語劇祭は、自分の専攻語の仲間と、外の人をつなげてくれる良いきっかけになると思います。もしかしたら新しい出会いもあるかもしれません。

今年は去年以上に沢山の人の見に来ていただき、興味を持ってもらったり、楽しんでもらったりしたら「いいな」と思っています。そのためにも、語劇祭当日にむけて、私たちは魅力ある劇を完成させるために頑張っていきます。

平成29(2017)年度 学生の受賞状況について

- ◎吉野真輝 (インドネシア語 2年)  
インドネシア語スピーチコンテストにて 特別総合最優秀賞受賞
- 古谷幸之輔 (インドネシア語 2年)  
インドネシア語スピーチコンテストにて カテゴリー A 最優秀賞受賞
- 藤森優菜 (インドネシア語 3年)  
インドネシア語スピーチコンテストにて カテゴリー B 最優秀賞受賞
- ◎井上卓磨 (ハンガリー語 3年)  
世界ヨーヨー選手権大会にて カウンターウェイト部門優勝
- ◎ベタンクサークル「inspE」(デンマーク語 2年)  
[長崎健人、谷口慶太、小泉亜瑠、和田 隼] 2017 日本学生ベタンク選手権大会にて チーム「inspE A」が優勝、チーム「inspE B」が準優勝
- 浜崎紗英 (ベトナム語 1年)  
ベトナム語スピーチコンテストにて 朗読部門 最優秀賞受賞
- 森本大聖 (ベトナム語 2年)  
ベトナム語スピーチコンテストにて カテゴリー B 1位受賞
- 浅田奈々 (ベトナム語 2年)  
ベトナム語スピーチコンテストにて カテゴリー B 3位受賞

祭りを楽しめ踊り人 土居 大起

法学部法学科 3 年生  
大阪大学お祭りダンスサークル祭楽人 代表

こんにちは。お祭りダンスサークル「祭楽人」です。私たちは、大阪外国語大学と大阪大学が合併する前、大阪外国語大学で結成されたサークルです。今年でチーム結成から19年目となりました。私たちは「よさこい」を日々練習しています。箕面市で開催される「箕面祭り」をはじめ、名古屋や静岡といった、全国各地で開催されるお祭りで演舞をしています。また、お祭りだけでなく、地域の福祉施設や保育園などからもご依頼を受け、演舞を通して、地域の活性化の力になりたいという思いで活動しています。

披露する演舞は、衣装のデザインや振り、道具などを含めて全て私たち自身で作っています。毎年、演舞内容は変わり2017年度演舞「道しるべ」は大阪道頓堀をテーマに、作品を作りました。

「祭楽人」には初代から続く「祭りを楽しめ踊り人」という永久コンセプトがあります。私たちは、たくさんの方の支えがあって、活動することができています。普段演舞を披露しているお祭りも、見てくださるお客さんや運営をしてくださっている方、またその地域の一般の方々など、多くの人の力で成り立っています。そのようなお祭りを、まずは私たち自身が心の底から楽しみたい、そして祭楽人を取り囲む全ての人を楽しませたいという気持ちで踊っています。

「よさこい」の良さは、踊り子の大きな声ととびっきりの笑顔です。皆さまにも学生らしいパワフルさをお届けします。是非一度演舞を見にいらしてください。



- 芦田春香 (ベトナム語 4年)  
ベトナム語スピーチコンテストにて カテゴリー D 1位受賞
- ◎若林実奈美 (ポルトガル語 2年)  
ポルトガル語弁論大会にて 2位受賞
- ◎星島達太郎 (ロシア語 4年)  
関西ロシア語コンクールにて 上級部門 第1位
- ◎初田 漢 (スワヒリ語 4年)  
スワヒリ語スピーチコンテストにて 優勝
- ◎大西陽子 (イタリア語 4年)  
全日本学生イタリア語弁論大会にて 第2位相当賞受賞
- ◎姫島鷹平 (イタリア語 4年)  
全日本学生イタリア語弁論大会にて 第3位相当賞受賞

◎印は、学部長賞受賞者

着任のメッセージ



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻  
スウェーデン語 特任准教授

バリストウルム・グンネル

I came to Osaka for the first time at the end of March, 2018, to teach Swedish at the Graduate School of Language and Culture. Earlier, I used to teach at universities in Russia, Latvia and Poland. I am very fond of my students and colleagues at Osaka university. The most advanced course has an extra study circle, called Torsdagsmys ("Cosy Thursday"). Unfortunately, I will stay only one year, but I will be happy to keep in touch!



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻  
スペイン語 特任准教授

ガルシア・ナランホ・ホセファ

みなさん、こんにちは。私は、フィナ(ホセファ) G. ナランホと申します。大阪大学の新しいスペイン語の教員です。敬愛する大好きな日本で、そして権威ある機関で仕事ができることをたいへんうれしく思っております。こちらから協力できることがありましたらなんなりとお知らせください。皆さまとお知り合いになれて光栄です。ありがとうございます。御挨拶まで。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻  
タイ語 助教

日向伸介

ひなたしんすけ

2018年4月に着任いたしました。専門はタイの近現代史で、おもに近代君主制と文化の関係について研究しております。伝統ある旧大阪外国語大学/大阪大学外国語学部にて教育研究に携われることを光栄に思うとともに、身の引き締まる思いであります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



大阪大学 言語文化研究科  
日本語・日本文化専攻 助教

小池 康

こいけ やすし

2018年4月に着任いたしました。学生時代は近現代日本語の文法変化を研究しておりましたが、その後日本語教育に従事してまいりました。本学では日本語文法を中心に講義や演習を担当しておりますが、改めて教えることの難しさを痛感しております。教育にも研究にも邁進する所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

告知板

受賞者のご披露

- 平成30年春の叙勲・瑞宝中綬章  
舟阪 晃氏 (大阪外国語大学名誉教授) (大 E10)
- インド共和国勲章パドマ・シュリー(蓮華勲章)  
溝上富夫氏 (大阪外国語大学名誉教授) (大 IP13)  
長年にわたり日本におけるヒンディー語の普及と日印文化交流の活性化への貢献により、インド政府からパドマ・シュリー勲章を授与された。
- 第2回日本アメリカ文学会賞  
渡邊克昭氏  
(大阪大学言語文化研究科・外国語学部教授) (大 E29)  
受賞作:『楽園に死す アメリカの想像力と<死>のアポリア』(大阪大学出版会)
- 日本翻訳家協会翻訳特別賞  
南田みどり氏 (大阪大学名誉教授) (大 B18/院 B6)  
受賞作:『ビルマ1946 独立前夜の物語』(ティンペーミン著、南田みどり訳 段々社発行・星雲社発売)

平成29年度退職教員

- 上田 功  
言語文化研究科 教授 (英語)
- 木内良行  
言語文化研究科 教授 (フランス語)



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻  
朝鮮語 特任准教授

南 美恵

ナム ミヘ

大阪大学で再び韓国語を教えることができ、嬉しいです。世界は知っている分だけ見るといいます。韓国を知ることによって皆さんがさらに広い世界へ進めるよう手助けする手引きになればと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



大阪大学 言語文化研究科  
日本語・日本語文化専攻 特任助教

李 偉

リ イ

こんにちは。2018年3月本学で博士号を取りました李偉です。4月から2年間の予定で特任助教として勤務しております。貴重なチャンスを与えられましたことを、大変光栄に存じます。個人的には、視点に着目した文法習得、日中言語文化の比較対照研究に興味を持っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻  
大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成プログラム(MLE) 特任助教

久保 公人

くぼ きみひと

大阪外大から大阪大学への移行期に院生として過ごした私が、外国語学部の学内での存在感、ならびに阪大の国際的な舞台での存在感を高める仕事を引き受けたことに縁を感じるとともに身が引き締まる思いです。MLEプログラムを通じて「外国語学部と他学部の橋渡し」と「大阪大学の知の海外への発信」の強化に尽力いたします。

大阪大学 言語文化研究科 言語社会専攻  
トルコ語 特任講師

ディリック・セバル

メルハバ(こんにちは)、2018年5月よりトルコ語の特任講師として着任いたしました。修士課程と博士課程を岡山大学で修得してから、本格的に教育活動に関わるのは大阪大学が初めてです。専門は言語学であり、特に方言研究に関心を持っております。トルコの南西部の地域方言に関する記述言語学的な研究を行っております。母語話者ならではのトルコ語とその面白さを多くの学生に伝えられるように、教育と研究に全力を尽くしたいと思っております。皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

■平成29年度 外国語学部卒業生数

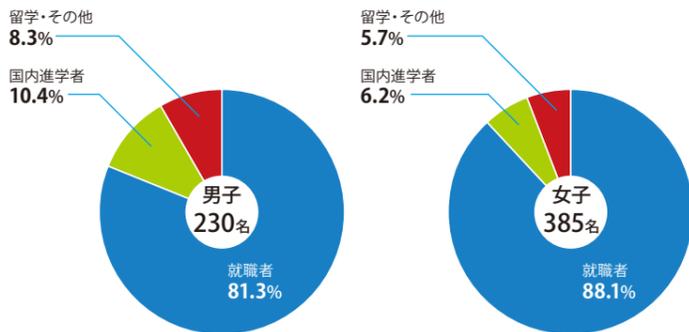
【旧課程】

専攻等	平成29年 9月25日卒業			平成30年 3月22日卒業			合計	
	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子
国際文化学科昼間主	0	1	1	0	0	0	0	1

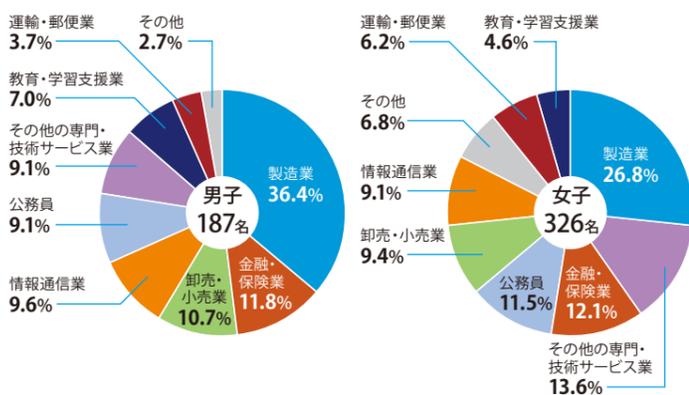
【新課程】

専攻等	平成29年 9月25日卒業			平成30年 3月22日卒業			合計	
	男子	女子	小計	男子	女子	小計	男子	女子
中国語専攻	0	0	0	21	19	40	21	19
朝鮮語専攻	0	0	0	3	18	21	3	18
モンゴル語専攻	0	0	0	10	6	16	10	6
インドネシア語専攻	0	0	0	1	11	12	1	11
フィリピン語専攻	1	0	1	2	8	10	3	8
タイ語専攻	0	0	0	7	9	16	7	9
ベトナム語専攻	0	0	0	4	8	12	4	8
ビルマ語専攻	1	0	1	9	11	20	10	11
ヒンディー語専攻	0	0	0	5	9	14	5	9
ウルドゥー語専攻	0	0	0	7	10	17	7	10
アラビア語専攻	0	0	0	10	14	24	10	14
ペルシア語専攻	1	0	1	4	16	20	5	16
トルコ語専攻	1	0	1	7	14	21	8	14
スワヒリ語専攻	0	0	0	8	13	21	8	13
ロシア語専攻	0	0	0	17	18	35	17	18
ハンガリー語専攻	0	0	0	3	14	17	3	14
デンマーク語専攻	0	0	0	5	16	21	5	16
スウェーデン語専攻	0	0	0	5	12	17	5	12
ドイツ語専攻	0	0	0	16	23	39	16	23
英語専攻	0	0	0	25	33	58	25	33
フランス語専攻	0	1	1	9	21	30	9	22
イタリア語専攻	0	0	0	7	15	22	7	15
スペイン語専攻	0	0	0	20	16	36	20	16
ポルトガル語専攻	0	0	0	10	17	27	10	17
日本語専攻	0	1	1	11	31	42	11	32
計	4	2	6	226	382	608	230	384

●平成29年度卒業生 進路・就職状況



●平成29年度卒業生 業種別就職者数



■平成30年度 外国語学部入学者数

専攻等	一般入試				世界適塾 AO入試				特別入試				海外在住 私費 外国人 留学生 特別入試		国費 留学生		外国政府 派遣 留学生		合計		3年次 編入学			
	前期日程				後期日程				私費 留学生		帰国 生徒										募集人員		入学者数	
	募集人員	合格者数	入学辞退	入学者数	募集人員	合格者数	入学辞退	入学者数	募集人員	入学者数	募集人員	入学者数	募集人員	入学者数	募集人員	入学者数	募集人員	入学者数	募集人員	入学者数	募集人員	入学者数	募集人員	入学者数
中国語専攻	36	41	0	41	4	1	0	1													40	42		
朝鮮語専攻	16	18	0	18	2	1	0	1													18	19		
モンゴル語専攻	16	19	1	18	2	0	0	0													18	18		
インドネシア語専攻	9	11	0	11	1	0	0	0													10	11		
フィリピン語専攻	10	13	1	12	2	0	0	0													12	12		
タイ語専攻	13	15	0	15	2	0	0	0													15	16		
ベトナム語専攻	13	16	0	16	2	0	0	0													15	16		
ビルマ語専攻	16	19	3	16	2	0	0	0													18	16		
ヒンディー語専攻	16	19	0	19	2	0	0	0													18	19		
ウルドゥー語専攻	16	19	1	18	2	0	0	0													18	18		
アラビア語専攻	22	27	1	26	3	0	0	0													25	26		
ペルシア語専攻	16	19	2	17	2	0	0	0													18	17		
トルコ語専攻	16	19	0	19	2	0	0	0													18	19		
スワヒリ語専攻	16	19	0	19	2	0	0	0													18	19		
ロシア語専攻	22	27	0	27	3	0	0	0													25	27		
ハンガリー語専攻	13	16	0	16	2	0	0	0													15	16		
デンマーク語専攻	16	19	1	18	2	0	0	0													18	18		
スウェーデン語専攻	16	18	1	17	2	1	0	1													18	18		
ドイツ語専攻	31	36	0	36	4	1	0	1													35	37		
英語専攻	54	63	3	60	6	0	0	0													60	60		
フランス語専攻	22	27	1	26	3	0	0	0													25	26		
イタリア語専攻	16	16	0	16	2	3	0	3													18	19		
スペイン語専攻	31	36	1	35	4	1	0	1													35	36		
ポルトガル語専攻	27	32	0	32	3	0	0	0													30	32		
日本語専攻	27	30	0	30	3	0	0	0	10	8											40	38		
計	506	594	16	578	64	8	0	8	10	8											580	595		

■平成30年度 外国語学部入学者数

専攻等	1年次入学			3年次編入学		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
中国語専攻	11	31	42	0	0	0
朝鮮語専攻	2	17	19	0	0	0
モンゴル語専攻	8	10	18	0	0	0
インドネシア語専攻	3	8	11	0	0	0
フィリピン語専攻	4	8	12	0	0	0
タイ語専攻	5	11	16	0	0	0
ベトナム語専攻	3	13	16	0	0	0
ビルマ語専攻	6	10	16	0	0	0
ヒンディー語専攻	6	13	19	0	0	0
ウルドゥー語専攻	7	11	18	0	0	0
アラビア語専攻	10	16	26	1	0	1
ペルシア語専攻	7	10	17	0	0	0
トルコ語専攻	10	9	19	0	0	0
スワヒリ語専攻	5	14	19	0	0	0
ロシア語専攻	11	16	27	0	1	1
ハンガリー語専攻	3	13	16	0	0	0
デンマーク語専攻	3	15	18	0	0	0
スウェーデン語専攻	5	13	18	0	0	0
ドイツ語専攻	14	23	37	0	0	0
英語専攻	27	33	60	0	0	0
フランス語専攻	6	20	26	0	0	0
イタリア語専攻	6	13	19	0	0	0
スペイン語専攻	10	26	36	0	0	0
ポルトガル語専攻	15	17	32	0	0	0
日本語専攻	9	29	38	0	0	0
計	196	399	595	1	1	2

懐かしの恩師は今

近況 一日暮れて道遠し



橋本 勝

(大M13/大阪外国語大学名誉教授 モンゴル語)

阪大と統合の年、2007年3月に大阪外大を定年退職して、早11年が経った。時の流れの速さに今更ながら驚くばかりである。京都大学大学院博士課程を終えて京大文学部言語学教室に半年勤務の後1970年秋に教官として外大に着任した。その頃は大阪都心の上本町学舎であり、まだ「大学紛争」の名残が漂っていた。そのうち、やがて1979年秋に現在の箕面キャンパスに移転した。退職後も国際モンゴル学会参加・講演のためモンゴル、中国、韓国を幾度か訪れているが、ここ数年は国内に留まっている。退職後、8年務めた日本モンゴル学会会長の職務も一昨年春、退任し学会の運営の任務から離れた。

現在も国内の学会などに折々参加し研究者、学友との交流に努めている。気持ちとしては現役時代と変わらないが、もう70代半ばを過ぎた。日頃、健康維持のためにも散歩を心がけている。さらに前進しなければと思う一方、大学在職時代にやり残した事など、来し方を振り返り整理し、纏めなければならないと思っている。大学、語科の同窓会などで教え子、学友たちに会い談笑する機会がある。外大で学び、学位を取得し今は母国の大学や日本の大学で教鞭をとる嘗ての留学生、学生たちと国内外の学会などで会い話ができるのも大きな喜びである。昨年6月にモンゴル語同窓会の朔風会が2年ぶりに開催され、次いで滞っていた『朔風』第8号の発行も同年9月に実現した。皆様のご協力に感謝する。また我が書齋を占拠する、長年にわたり収集した蔵書、文献資料などの整理もなかなか捗らず現在に至っている。「日暮れて道遠し」の感あり。

「英語」から「情報」へ



舟阪 晃

(大E10/大阪外国語大学名誉教授 言語・情報講座)

退職の前後のを中心にして書かせていただきます。平成5年の外大の改組の際、語学系は地域文化学科へ、一般教育系は国際文化学科へ移行しましたが、私は、英語学科から国際文化学科へ移籍し、定年退職の時には、言語・情報講座に所属していました。

退職の3、4年前に、奈良の私立大学から、情報学部を新設したいので協力してほしいという話をいただきました。情報学部は基本的に理系であるということ、自宅から大学までの距離が遠いということなど、大いに悩みましたが、情報学部は文系をも含む構想だということで、最終的には、新しいことをはじめるのも面白いのではと、決心をしました。

外大で、平成7年から9年まで、初代の情報処理室長を務めたことや、その間に、外大のホームページをはじめ設置したことなどがプラスになりました。私大の情報設備は、よく整っていましたので、快適に授業ができました。ただ、車で片道2時間かかるというのはかなり負担になり、その後の体調に影響したようです。

私大退職後は、定職にはつかずに、自由に暮らしています。体調は万全ではありませんが、そこそこのところまでとまるように気をつけています。

## 黎明期の大阪外大女子バレー部とOG会発足について

田中己紀 (大 PB32)

大阪外大上本町キャンパスで、バレーボールをこよなく愛する先輩諸姉の努力により産声を上げた女子バレー同好会は、美しい緑あふれる箕面にキャンパスが移された後、晴れてバレー部に昇格。当時4部制だった関西女子バレーボール連盟にも加盟し、最下部の4部からリーグ戦にも参戦するようになりました。年間の主たる活動は、春秋のリーグ戦、近畿国立大学体育大会、東京外大との定期戦、関西4外大定期戦への参戦。そこで良い戦績を取めるために、奈良県五條市で合宿も行い、日々の練習に打ち込んでいたことは、全てのOG諸姉妹に良い思い出として残っていると信じております。

あれから30年以上の時間が流れ、箕面キャンパス移転の報に、当時を懐かしむOG有志達が、昨夏東京、愛知からも集結してキャンパスツアーを行い、活動の拠点であった体育館の中にも足を踏み入れることができました。ほとんどのメンバーが、キャンパスを訪れるのは卒業以来ということで、感慨深い一日となりました。

女子バレー部には残念ながら未だに正式なOG会の発足が叶っておりません。バレーボール愛好者という共通の理念で繋がる同窓生が、時空を超えて時に参集する機会を持つために、今回『咲耶』の紙面をお借りして、OG会の発足についてご意見を募らせていただければ幸いです。



## 懐かしき卓球部

佐藤篤子 (大 S24)・清水直子 (大 DM25)

私たちは1970年代を上本町8丁目にあった学舎で大学生活を送った。入学して何かスポーツをやりたいかったが、テニスコートやグラウンドのある瓢箪山に行くのは大変だったので、上本町でできる卓球部をのぞいた。「烈士の碑」の奥に卓球場があり、卓球台が5台置かれていた。見学していたら、先輩が声をかけてくれ、更衣室に案内された。更衣室には、「男子使用中」という札がかかっている、ひっくり返すと「女子使用中」に変わった。更衣室の中は、汗臭いユニフォームや丸まった靴下が所狭しと積み上げられていた。最初は呆れたが、人とは順応するものである。なぜ大学4年間、卓球部に所属しえたかを考えると、ひとえに「楽しかったから」だと思う。

新入生歓迎コンパで「きんぎら節」なる大人感のある艶歌を習い、少し顔を赤らめたのが懐かしい。最寄駅から大学に行くには、「白鳥」「いせや」というパチンコ屋の前を通ることになるのだが、必ず先輩2~3人が玉を出しており「みんなで食べて。」と紙袋いっぱいのお菓子里に交換してくれた。大学はご存知の通り、すごい環境の中にあつたので、練習日のランニングは「今日は、世界1周!」とキャプテンが声をかけ、ホテル・パリ、ホテル・モンテカルロの前を走って、ウォーミングアップをしたものだった。

卓球部はOB会の連絡網もしっかりしており、OB戦をはじめ、同窓会などもよく企画されている。これはひとえにアラビア語卒、塩見氏のご尽力に負うところが多い。



## 軽音楽部 OB・OG 活動報告

田中喜博 (大 A37)

私達軽音楽部には公式なOB・OG会が存在しておらず、大学卒業後は音楽から離れてしまう仲間たちも多かったようです。しかしここ数年のSNSの広がりが一つのきっかけとなり、当時の仲間達の集まりが少しずつ復活し始めています。数十年ぶりに楽器に触ったという仲間もいる中、Facebook上でのコミュニケーションを起点として、まずはスタジオに入る事から始め、メンバーの出張などに合わせた会食やセッション等、久しぶりの音楽を軸とした交流を楽しんでいます。

大きなイベントとして、在阪のメンバーの尽力により、年に一度10月に大阪・江坂のライブハウスを借りてOBライブが行われています。このイベントを目標に練習を行うメンバーも多く、貴重な演奏発表の場であると共に、古い仲間が顔を合わせる同窓会の場となっています。現在のメンバーは昭和55年入学組から平成2年入学組までと少しずつ広がっております。

現在はライブハウスのキャパシティの問題もあり、演奏者を中心とした関係者のみにお声がけをしている状況ですが、バンド毎や個人でライブを企画するメンバーも増え始めており、ゆくゆくはメンバーをご存知の軽音楽部以外のOB・OGの方等にもお声がけをできるようになればと期待しております。お問い合わせ等ございましたら、久保田(昭和62年卒業 インドネシア語 E-mail tetsukubo2004@yahoo.co.jp)まで、ご連絡をいただければと思います。



## 「シェイクスピアを上演する会」の思い出

柴田直樹 (IIE17)

1984年11月3日。この日、シェイクスピアを上演する会の初上演『ペニスの商人』が、大阪外国語大学A棟の416号室でありました。正木恒夫教授が十数年間開講していた「シェイクスピア自主講座」。その講座を受講していた私。共に受講していた数人に新たに参加した人を含めた総勢18名のメンバーによる上演でした。

自主講座閉講後、台本読みだけの年度もあった、2年間の準備期間を経ての上演でした。衣装も自前でそれらしい服を持ち寄ったり、衣装係りの人の手作りでした。夏には大阪南部の青少年センターで合宿したり、外大の校舎の非常階段から大空に向かって「Pi、Pi、Pi、Pa~!」と発声練習をしたことも今ではいい思い出です。演劇は初めての人もいたり、英語も現代英語ではないため、セリフを覚えるだけでも大変でした。それでも自主講座の先輩方に負けずに、みんな一生懸命でした。翌年、『真夏の夜の夢』を上演し、私は卒業しました。その後、後輩の皆さんによる上演もありました。残念ながら卒業後疎遠になり、ほんの一部の方としか連絡を取りあわれないままです。今回、同窓会の会報に載せていただく機会を得、また縁がありました。今回「シェイクスピアを上演する会」の歴史の一端を語ることができる喜びでいっぱいです。あの頃の皆さんと数十年ぶりに再会が叶うことを心より願いながらペンを置きます。



近鉄奈良駅より徒歩1分のホテル・花小路  
HOTEL Hanakomichi  
上田トクエ (大E15)  
〒630-8226 奈良県奈良市小西町23  
TEL: 0742-26-2646  
HP: hanakomichi.co.jp

ホテル1F・季節を  
愉しむレストラン  
「櫃屋」  
櫃屋  
JAPANESE CUISINE RESTAURANT

古典芸能案内 IIE17  
文楽、落語、歌舞伎の面白さを伝えます。  
天野光 (本名・天野豊子)  
AMANO HIKARU  
文楽、落語、歌舞伎のセミナー依頼受付中。古典芸能案内で検索!!!  
アメブロ: <https://ameblo.jp/koten-geinou-guide/> 早期退職者の知的生活: <http://artcoordinator.com/>  
e-mail: [kotengeinou@nike.eonet.ne.jp](mailto:kotengeinou@nike.eonet.ne.jp) フェイスブック: [amano.hikaru.2](https://www.facebook.com/amano.hikaru.2)

平成29年度咲耶会総会の報告

企画総務委員会

平成29年度咲耶会総会が11月11日(土)、大阪大学豊中キャンパス、大学会館にて開催された。来賓、先生方を含め、約120名の参加者があり、盛会のうちに終えることができた。

河原源太大阪大学理事・副学長をはじめ、久保井亮一大阪大学北米同窓会日本支部担当理事、東京外語会関西支部の田邊隆一支部長並びに幹事の方々を来賓としてお迎えした。また、現職、旧職を合わせて21名の恩師の先生方にご出席いただいた。

第一部の総会では、少徳敬雄会長の挨拶につづき、新名誉会長の大内一外国語学部長からご挨拶をいただいた。議事後、東明彦前学部長からもご挨拶を頂戴した。

議案では、平成28年度決算と29年度予算案の承認を得た。28年度決算では、積立金会計からの補填が300万円であったが、29年度については、補填なしとし、プライマリーバランスの達成を目指す予算案が提案された。

次に、2年任期の幹事改選の年にあたることから、役員人事案を提案、全員が承認された。新役員・幹事については、会報の46ページをご覧ください。

会則の改正については、大学院の組織改編により、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻および日本語・日本文化専攻修了者が、咲耶会正会員に追加された。特別会員の規定については、正会員以外の現・旧教員および幹事会において推薦された教員となっていたが、下線部を、幹事会において推薦された者と改正した。このことにより、特別会員の適用範囲が広がった。

第二部では、平成28年にスタートした「咲耶出版大賞」の授与式が行われ、石野伸子選考委員長から選考結果について報告。賞状と副賞の授与後、大賞を受賞された大阪大学名誉教授の南田みどり氏に、作品の概要等についてお話しいただいた。

後半は趣向を変え、大阪外国語大学グリークラブOB合唱団(大阪)のミニコンサート。おなじみのGaigo will shine tonight、Varsity、外大の学歌で始まり、世界の愛唱歌5曲\*、アンコールに応え「遙かなる友」を熱唱。グリークラブOBの健在ぶりを示すとともに、総会の雰囲気の大いに盛り上げた。

\*ともしび(ロシア)、Ständchen(ドイツ)、Shenandoah(アメリカ)、Bengawan Solo(インドネシア)、U Boj(クロアチア)の5曲

第三部の懇親会では、会長、来賓の挨拶につづき、磯田相談役の発声で乾杯。終盤、語劇祭実行委員長の志智太郎さん(ドイツ語4年)、司馬遼太郎記念学術講演会ビブリオバトル優勝者の西畑宏紀さん(日本語専攻3年)、2018年夏まつり実行委員長の吉田晟人さん(法学部)にスピーチをお願いし、現役学生の頼もしい活躍ぶりをアピールしてもらった。

(文責: 井上泰子)

咲耶会行事・会議

平成 29年

11月 11日(土) 平成 29年度咲耶会総会・演奏会・懇親会(於: 大阪大学会館) 第6回幹事会(幹事・支部長会議) 会長・副会長会議

12月 2日(土) 第3回「咲耶茶論」(於: 中之島センター)

12月 11日(月) 「ワージョブ・ウーマン」  
・ 12日(火) (於: 箕面キャンパス福利会館)

12月 25日(月) 会長・副会長会議(於: 大水綜合法律事務所)

平成 30年

2月 10日(土) 第1回「咲耶出版大賞」選考委員会(於: 中之島センター) 咲耶会入会金・年会費制度の見直しに関する意見交換会(於: 中之島センター)

2月 17日(土) 第1回幹事会(於: 中之島センター) ※ テレビ会議システム併用

3月 4日(日) World Job Festa (於: 箕面キャンパス 福利会館)  
・ 5日(月)

3月 17日(土) 第4回「咲耶茶論」(於: 中之島センター)

3月 22日(木) 大阪大学卒業式・学位記授与式(於: 大阪城ホール) 入会案内を配布

4月 2日(月) 新入生オリエンテーションでの入会案内(於: 箕面キャンパス)

4月 3日(火) 大阪大学入学式(於: 大阪城ホール)

4月 21日(土) 新入生歓迎会(於: 豊中キャンパス カフェテリア「かさね」)

4月30日(月・祝) 大阪大学いちよう祭

4月30日(月・祝) 大阪大学ホームカミングデイ(於: 豊中キャンパス)

5月 20日(日) 第4回「咲耶会女子会」(於: 奈良 ホテル花小路「櫃屋」)

5月 28日(月) 会長・副会長会議(於: 大水綜合法律事務所)

6月 23日(土) 第5回「咲耶茶論」(於: 中之島センター) 会長・副会長会議

7月 7日(土) 大阪大学夏まつり(於: 箕面キャンパス) ※大雨のため中止

7月 14日(土) 第2回「咲耶出版大賞」選考委員会(於: 中之島センター) アラサービアパーティー(於: DRUNK BEARS NU 茶屋町店)

7月16日(月・祝) 平成29年度 咲耶会会計監査

8月 4日(土) 第2回幹事会(於: 中之島センター)

8月 18日(土) 大阪大学の集い in 福井(於: ザ・グランユアーズフクイ)

10月 20日(土) 平成30年度 咲耶会総会・講演会・懇親会(於: 大阪大学会館) 第3回幹事会(幹事・支部長会議) ※詳細は「咲耶会総会案内」(3ページ)をご覧ください。

11月 2日(金) 大阪大学まちなか祭(於: 豊中キャンパス)  
～ 4日(日)

11月 8日(木) 司馬遼太郎記念学術講演会(於: 大阪大学会館)

11月 17日(土) 第6回「咲耶茶論」(於: 中之島センター)

11月 24日(土) 語劇祭(於: 箕面キャンパス)  
・ 25日(日)

★各委員会活動については省略しています。

私の生き方、ここが好き! 咲耶茶論

講演会・勉強会組織委員会 委員長 河井洋子 (大 R27)

好評の「咲耶茶論」は第5回を終えました。このサロン風講演会では、各語科の卒業生の方をお招きして、お仕事やご自



身の事など、あまり専門的に過ぎず、気楽な雰囲気の中でお話ししています。

昨年12月の第3回には中国語学科卒で元中学校教師の小部修さん(大C15)に教師としての様々な体験談、ご自身の生い立ち、現在の社会活動、音楽活動をお話し頂きました。また尺八演奏も披露されました。

今年3月、第4回はヒンディー語学科卒でインド政府から勲章を授与された溝上富夫名誉教授(大IP13)に昨年のインド講演旅行のお話を中心にして頂きました。外大時代の思い出、インド人の独立に対する思い、日本と関わりのある有名人など興味深いお話が色々でした。

6月の第5回にはビルマ語学科卒の南田みどり名誉教授(大B18)にご自身の女性としての生き方、翻訳出版活動、現在のミャンマーの姿などをお話し頂きました。あまり知られていない国の内情など意外な一面もあり、また先生ご自身のエネルギー溢れる生き方にも関心を持たれた方も多かったようです。

いずれの会も各トーカーの人生が映し出され、また面白いエピソードもあり、参加者も熱心に聴いておられました。会場で、恩師や旧友と再会出来て嬉しかったという声も聞きます。

第6回目は 11月 17日に英語学科卒で英字新聞記者をしておられた笹井常三先生(大E1)をお迎えします。在校生でジャーナリスト志望の人にも参考になるお話が聞けるのではないのでしょうか。今後も人材豊かな各語科の卒業生の方々の中からお話を頂こうと思います。自薦、他薦、随時募集しておりますので宜しくお願いします。

第3回咲耶出版大賞が決定しました

選考委員 脇坂洋子 (大 D27・院後期言語 9)

昨年に卒業生や教員によって書かれた出版物を対象に、外国精神溢れる作品を顕彰する「咲耶出版大賞」の第3回受賞者



が決定した。大賞には、坂本雅子氏(大A17)(名古屋経済大学名誉教授)の『空洞化と属国化～日本経済グローバル

化の顛末』(新日本出版社)が選ばれた。

今年度も、日常の中に潜む問題を意識化させてくれる作品、一般には知られていない史実や社会状況を明らかにする作品、学問的に意義深い著作や、語学実用書、楽しい読み物等、

16点の多彩な候補作が集まった。6人の委員から成る選考委員会では、各自読み込んだ結果をもとに様々な観点から検討を重ねた。

その中で、坂本氏の本作は、日本の生産の空洞化と企業のグローバル化を一体的な現象として世界的な視点で考察し、日本の将来に警鐘を鳴らしている点が高く評価された。氏は、膨大な資料を読み解き、日本経済の停滞・後退の要因が、製造業の衰退すなわち生産の海外移転と国内産業の空洞化と、米国による規制撤廃の外圧などによって「属国化」されたことに起因すると検証している。このような現象は、製造業のみならず金融や日常生活上の諸事全般に影響を及ぼすという指摘を、我々は重く受け止めねばならないであろう。

特別賞として、孫美幸氏(大K46)の『境界に生きる』(解放出版社)と『日本と韓国における多文化共生教育の新たな地平』(ナカニシヤ出版)が選ばれた。孫氏は、現在、大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター講師。在日としての自身の体験に基づき多文化共生教育の理論と実践を紹介している。教育現場のみならず多くの人々に届けたい内容として委員間で深い共感を得た。

学内業界研究会ワールドジョブフェスタ / ワージョブ・ウーマン

在校生支援委員会 委員 大辺理恵 (大 DM51・院前中北欧 7)

2018年1月15日～22日、また3月4日・5日に、箕面キャンパスにて、「学内業界研究会ワールドジョブフェスタ」が開かれました。このイベントは、阪大外国語学部生のためだけの学内就活イベントで、1月には、81社の企業、のべ617名の学生が参加、また3月には51社の企業、のべ152名の学生が参加し、非常に活気のあるイベントとなりました。咲耶会もこのイベントに共催という形で関わっています。このイベントを運営しているidC株式会社のアンケート調査には、参加した学生から、「現場で実際に外国語学部卒業生がどのように働いているのかを聞くことができた」、「外国語学部向けの説明をしてくださったので、聞きたい情報が効率よく聞けた」などといった声がありました。

また昨年、2017年12月11日、12日の2日間には、箕面キャンパスで「ワージョブ・ウーマン」という外国語学部女子学生を対象としたキャリア相談会も開かれました。就職説明会などでは質問しづらい、キャリア設計に関する女性ならではの悩み・不安について、計28社で働く女性社員の方々に直接話することができる機会でした。参加した女子学生の総数は70名、参加した学生からは「踏み込んだ質問をすることができた」と、こちらも好評だったようです。

今後咲耶会では同窓会として何らかの就職サポートができればと考えております。卒業生の皆さまにご協力を依頼することがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いたします。

## 会費のクレジット決済導入について

本年4月から、咲耶会では会員の皆様からの会費、賛助金を少しでもご協力していただきやすくするために、クレジット決済を導入しました。年々、会員が増加し咲耶会活動にかかる予算も増加する中、皆様のご協力、ご支援で咲耶会活動の活性化と母校支援を充実させていきたいと存じます。海外からのお支払いも便利になりましたので、海外支部の皆様には、ご活用いただけますよう、よろしくお願いいたします。詳細は、咲耶会ホームページをご覧ください。

このクレジット決済は咲耶会のデータ管理、名簿作成で長年業務委託しています株式会社サルトのシステムを利用していますが、クレジット決済に関するクレジット情報は三井住友ファイナンシャルサービスにのみ残るシステムで運用しておりますので安心してご利用ください。

※ご利用いただけるクレジットカードは、VISA、Masterのみです。



※咲耶会ホームページから、クレジット決済ページへアクセスすることができます。

<咲耶会ホームページ> [sakuyakai.net](http://sakuyakai.net)

## コンビニエンスストア・郵便局でのお支払い

毎年、当会より会員のみなさまへ送付する同窓会報に振込用紙を同封しています。お手元に届きました振込用紙をご利用ください(振込手数料は、当会が負担いたします)。万が一会報が届いていない場合は、お手数でも同窓会事務局へご一報願います。次年度より会報を送付いたします。振込用紙を紛失した方は、郵便局もしくはクレジットカードでの払い込みをお願いいたします(コンビニエンスストアでの払い込みはできません)。ご利用いただけるコンビニエンスストアは以下の通りです。



**2018年「夏まつり」は大雨のため中止になりました**  
7月7日(土)に予定されていた「夏まつり」が前日から降り続く大雨のため、やむなく中止になりました。咲耶会では、毎年、古本市を出店していますが、今年は、お休みの予定でした。来年度以降の出店については、学生との交流を楽しみにして下さる方々も多く、前向きに検討したいと考えています。引き続き、ご支援、よろしくご願ひ申し上げます。(事務局)

## 「咲耶会新入生歓迎会の開催」について

若手活性化委員会 委員 後藤 峻 (夜 F42)



4月、大学が一気に華やかになるこの時期、咲耶会主催で新入生に向けた歓迎イベントを開催しています。私が担当して今年で4回目の開催となりました『新入生ウェルカムパーティ』は、毎回30名前後ご参加いただけます。入学して1か月も経たない頃ですから、周囲には初めて会う人たちばかり。会の初めは緊張が目立ちます。そこで、チーム形式でのゲームやクイズなど用意。自己紹介し合い、クイズに答えてシールを集めていきます。優勝チームには景品があるので毎回盛り上がっています。ゲームの後は、部活動・サークル紹介を行います。外国語学部の団体が多く、先輩たちと交流する機会にもなっています。会の最後はOGOBも合わせてみんなで歓談です。今年は、去年のパーティ参加者が来てくれて、再会を喜んでいました。この会でできた学生同士、同窓生との繋がりがこれからの学生生活のどこかで生きることを願うばかりです。

## 平成30年度 大阪大学 司馬遼太郎 記念学術講演会のお知らせ

今年度のお大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会は、主催/大阪大学 協力/産経新聞大阪本社 後援/司馬遼太郎記念財団 協賛/咲耶会で、11月8日(木) 17:30~(予定)に大阪大学豊中キャンパス 大阪大学会館で実施されます。

明治維新150年にあたる今年のテーマは「維新の群像(仮)」で、大阪大学生による「維新の群像」を描いた司馬作品のビブリオバトル(書評合戦)と、「お城と明治維新(仮称)」をテーマとした千田嘉博氏(城郭考古学者、奈良大学前学長)による講演が行われます。

京・紫野大徳寺前 電話 075 (493)0019  
津田 真須美 (大 C42)



## 咲耶会・女子会

幹事 大辺理恵 (大 DM51・院前中北欧7)

2017年度より「咲耶会・女子会」という名称のもと、女性卒業生を対象とした小規模な集まりを、関西を中心として始めました(将来的には、地方への出張女子会なども実現できればと思っています)。

2017年秋には、京都祇園の「ロシアレストランキエフ」にて第2回女子会(参加者15名)を、2018年冬には、大阪淀屋橋のベトナム料理レストランにて第3回女子会(参加者9名)を、また去る5月20日には、京阪神から少し離れ、奈良の「ホテル花小路 櫃屋」にて第4回女子会(参加者19名)を開催しました。

## 新役員・幹事・事務局員

前田 征信 (大 K16)



お茶の稽古を始めて5年。家元(裏千家)の指導方針の一つに「文化を欲する中高年層へのアプローチ」があります。元気で学習意欲あふれる高齢者OBへの情報発信。先日、東外大の総会後の懇親会に出てびっくり、卒業50周年(1968年卒)103名、25周年(1993年卒)78名もの参加で事務局が麻痺、混乱するほどのにぎわい。こんな咲耶会の総会があっても…。

石野 伸子 (大 D22)



大学の同窓であることが、思いがけない世界を開いてくれることが時折ある。例えばギリシャに旅行したときは現地旅行会社の方が同窓でよくしてもらった。仕事で東京転勤になったときは、支部の方を通じて多くの知己を得てありがたかった。青春のわずかな期間、同じ学舎にいたというだけで通じ合う心。同窓会活動はそれをサポートし、新しい仲間づくりや活動を創生できる。人生百年時代だからこそ、ますます重要になるつながり。幹事というお役目を拝命して、さて何が出来るかワクワクしている。

福富 奈津子 (大 C24)



中国語科、1976年卒業。中国料理関連の仕事に携わっていました。在職時は恩師・先輩・同級生・後輩に随分お世話になったので、感謝の気持ちを込めて、若い世代に仕事に役立つネットワーク構築の一助になればと幹事をお引き受けしました。様々な分野で活躍されておられる方々の聲に接することができるのではと楽しみにしています。

岡本 晶子 (大 S29)



前任の亀井様のご紹介により、監査担当幹事を拝命した1981年イスパニア語卒の岡本晶子と申します。縁あって公認会計士となり、会計監査を14年ほど経験した後、現在は東京の監査法人で会計アドバイザー業務に従事しております。今までの知識と経験で、少しでも咲耶会のお役に立てればと思っています。よろしくご願ひ申し上げます。

ご参加いただいた同窓生の皆さま、楽しいひとときを本当にどうもありがとうございました。今後も専攻語・年代を越えて、外語女子ならではのトークができる機会をご提供できればと思っています。

また2018年の春からは、「女子会・夜会」も毎月第4金曜日の晩に、大阪・梅田周辺で開いております。こちらは、仕事帰りにふらーっと立ち寄ってもらえるような、そんな会になればと思っています。

これまでの女子会の様子、今後の開催情報などにつきましては、女子会HPをご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしております!



岸田 文隆 (大 K31・院 K15)



昨年10月に外国語学部の副学部長を拝命いたしました。専門は朝鮮語学で、とくに江戸時代に対馬や薩摩苗代川で編纂された朝鮮語学書の研究をおこなっております。阪大との統合から10年が過ぎ、また3年後にキャンパス移転をひかえたこの重要な時期に咲耶会の幹事をつとめさせていただくことになり、身の引き締まる思いです。どうぞよろしくご願ひ申し上げます。

大森 久美子 (大 DM36)



この度幹事に就任いたしました。神戸支部幹事も兼務しております。母校を同じくする方たちと語り合う事は、自分の人生を顧みたり、同じ外語スピリットを持つ人の言葉にこれからの歩みへの指針を得られたりと、生活の程よいアクセントになりますね。皆さまにもぜひそんな場をお届けしたく思っております。何卒宜しくお願い申し上げます。

福山 泰海 (大 H59)



2006年ヒンディー語専攻入学、2011年外国語学部卒業の福山泰海です。在学中はヨガサークルをしており、一発芸はこのヨガファイヤー。インドと外大には文武両道に人生のお世話になっており、新任幹事の熱い思いをこの炎に挨拶に代えさせていただきます。

天野 光(豊子) (II E17)



「週に2日咲耶会に来れない?」とお電話をいただき、面接試験を経て5月7日から咲耶会事務局のお手伝いをさせていただいています。大阪外国語大学事務室、第二部、もみじ寮と丸々1日箕面キャンパスで過ごさせていただいた大学時代は私の青春そのものでした。事務局の仕事を通じて諸先輩方や同輩、後輩に鼓舞されることが多々あります。今後ともよろしくご願ひいたします。

平成29年度 決算報告 (平成29年7月1日～平成30年6月30日)

	決 算	(単位: 円)
収 入	入会金収入	1,275,000
	年会費収入	4,344,000
	咲耶賛助金収入	2,163,500
	咲耶広告収入	223,000
	名簿及年史収入	1,065,400
	総会収入	471,000
	雑収入	132,296
	合計	9,674,196
支 出	援助金	439,940
	事業費	1,702,745
	運営費	4,971,985
	咲耶作成費	2,377,147
	咲耶通信費	1,723,238
	咲耶振替手数料	39,723
	合計	11,254,778
収支差額	-1,580,582	

期首正味財産(前期より繰越)	48,716,073
期末正味財産(次期へ繰越)	47,135,491

※学生支援特別積立金会計が平成28年度で終了し、積立金会計、咲耶(同窓会会報)会計を別にしない理由のないことから、決算書・予算書の形式を単純化し、分かりやすくしています。

平成30年度 予算案 (平成30年7月1日～平成31年6月30日)

	予算案	(単位: 円)
収 入	入会金収入	2,500,000
	年会費収入	4,800,000
	咲耶賛助金収入	2,400,000
	咲耶広告収入	380,000
	名簿及年史収入	124,000
	総会収入	600,000
	雑収入	173,100
	合計	10,977,100
支 出	援助金	800,000
	事業費	1,600,000
	運営費	4,397,100
	咲耶作成費	2,340,000
	咲耶通信費	1,800,000
	咲耶振替手数料	40,000
	合計	10,977,100
収支差額	0	

期首正味財産(前期より繰越)	47,135,491
期末正味財産(次期へ繰越)	47,135,491

平成29年度決算および平成30年度予算案に関する注解

●平成29年度決算について

平成29年度にプライマリーバランスをゼロにする(収支均衡)をめざした予算を作っておりましたが、残念ながら1,580,582円の赤字となりました。未達成に終わった主な原因は、入会金および年会費で見込んでおりました収入が大幅減になったことにあります。入会金収入は51名分の1,275千円(予算では100名、2,500千円)、年会費は1,448名分の4,344千円(予算では1,600名、4,800千円)に終わりました。この両方で1,681千円もの予算比マイナス額となり、支出面では切り詰めた予算の達成ができたのですが、収支均衡の目標は次年度に持ち越さざるを得なくなりました。次年度につきましては、入会金および年会費の増収をいかに実現するかが、最大の課題となります。またさらなる経費削減も検討する必要があります。

宮崎衛夫(副会長・会計担当)

●平成30年度予算案について

平成30年度もプライマリーバランスの達成を目標とした予算案を立案しました。入会金については、新入生への入会案内を例年どおり3月の合格者宛て手続き書類に同封するものとし、過去の実績から100名と見積もっています。今後、年会費と賛助金を主たる財源とした組織運営に移行できるよう、30年度は年会費支払者1,600名、会報『咲耶』賛助金協力者800名の目標を設定し、その達成に向けて、各方面に特段の協力を要請します。年会費・賛助金の支払い方法については、従来の郵便振込、コンビニ振込に加えて、クレジットカード決済を導入、その周知徹底を図ります。収入の不足分を補うものとして、協賛広告への賛同を呼びかけます。支出については、さらなる削減に努め、人件費、旅費交通費、会報作成費、事業費等についても、限られた予算の中で、もっとも有効な予算執行の在り方を模索してまいります。

井上泰子(副会長・事務局担当)

半世紀後、初めて！

田中新三(大E15)



なんともずぼらな面々が揃ったものです。卒業後50年にして初めて同窓会(A、Bクラス合同)を開きました！そのひとりの私が50年前に想いを致し、細いツテを辿って上田(藤本)トクエさんに、集まろうという話はなきや、と尋ねたことがきっかけで、名簿の整備からスタート。結局、連絡がついたのは43名、消息不明11名、物故4名(留年同期なども含む)。咲耶会事務局の井上泰子さんが幹事メンバーで大いに助けられました。

2017年12月4日、近鉄奈良駅至近のホテル花小路(良い場所を早めに設定でき、幹事は楽でした)に集ったのは17名。さすがにお互いをすぐには認識できなかった例も多かったのですが、近隣の二次会にも全員参加し、あっという間に和気藹々の約5時間が過ぎました。

宿泊組は同ホテル経営の上田さんの案内で早朝散策。寺社の佇まい、鹿の群れなど古都の風情を堪能しました。

残念だったのは、多くの級友が諸事情で参加できず、また、恩師のご参加を得られなかったこと。E15は笹井先生の(不肖の)一期生で格別の想いもあったのですが、澆刺青年の印象が深い大井先生ともども都合がつかず。そこで、不参加者を含めてほぼ全員から頂いた近況報告を集写真と共に不参加の方々にも送付して絆回復の一助としました。

今回は未定ですが、おそらく1年半後の来春、初夏にでも？

「ライマン先生を偲んで」ドイツ語科女子有志の集まり

脇坂洋子(大D27)



「咲耶出版大賞」選考委員を務めているドイツ語科22期石野伸子さんと27期の私との間で、「総会や懇親会でドイツ語科の卒業生の方をあまりお見掛けしなくて寂しいね」という会

話から始まって、せめて個人的につながりのある方々で集まりませんか、というお話が持ち上がりました。5月18日、夙川カトリック教会に、22期、25期、27期の女子9名が集まりました。

我々にとって忘れられないのは、ドイツ語会話を教えていただいたカタリナ・ライマン先生でした。先生は、ドイツ人らしく規律を重んじ厳格な授業をされ、真っ先に出てくる思い出は、「宿題を忘れると怖かった」といったものでした。けれど、先生のお宅にお邪魔して手料理をご馳走になったり、教会のクリスマスミサに伴って下さったり、心に残る暖かい思い出をたくさん残して下さいました。

教会で、ライマン先生が生前に寄付された聖体を照らすランプを見学しました。教会を出る時、カリヨンの塔から12時の鐘が鳴り響き、大阪市内の教会の墓地に眠る先生に思いをはせました。その後、ドイツ料理のレストランで賑やかに会食しました。

1953年の来日以来、先生が教鞭をとられた賢明学院や英知大学、教会の関係者、外大の卒業生など様々な方々にお話を伺って、先生の足跡を辿っています。これをまとめた形で記録し、多くのドイツ語科卒業生の皆様にお知らせできるようにしたいと検討中です。皆さまよろしく願いいたします。

清水脩とともに90年(外語グリークラブ)

グリークラブ OB合唱団



2016年の創部90周年記念演奏会大阪公演@大阪国際交流センター(指揮 田中道教 平成7年卒)

Gaigo Will Shine Forever! をスローガンに活動を続けているグリークラブOB合唱団です。近年は毎年のように全国規模の演奏会のご案内をしておりますが、今年は12月に大阪でちょっと変わった演奏会を行います。その名称は「清水脩33回忌法要ならびに記念演奏会」というものです。

清水脩氏は昭和7年フランス語部卒でグリークラブ第5代指揮者でした。外語卒業後東京音楽学校(現東京芸術大学)で学ばれ作曲家の道を進まれました。日本の男声合唱の父と呼ばれ、合唱曲以外にも交響曲、歌曲、童謡、ラジオ歌謡、邦楽曲、和製オペラなど多岐にわたる分野での作曲があります。また生家が浄土真宗のお寺であったことから多くの仏教讃歌もあり、中でも「恩徳讃」は今でも東西で広く歌われています。

2016年に亡くなられた山口慶四郎外大ロシア語名誉教授の発案をきっかけとして今般外大グリーOBと大阪御堂合唱団が大阪の南御堂本堂で合同演奏を行う事になりました。全曲が

清水脩作曲で大阪御堂合唱団は仏教讃歌5曲、外大グリーは定番の組曲「月光とピエロ」を演奏します。この演奏会は演奏場所の関係で非公開となっており一部の方しかご招待出来ません事をお詫びします。なお、来年 2019年はまた大阪で全国合同のコンサートを予定しております。次号の『咲耶』でご案内出来ると思いますので宜しくお願いいたします。

## 箕面ブラジル音楽を楽しむ会

山田敦子 (大PB42)



ポルトガル語教授の河野彰先生が言語指導をされているこの会は、2か月に一度箕面の公共施設で集まり、ブラジル音楽にふれています。そこに集うのは、プロやセミプロとしてブラジル音楽を歌っておられるシンガーの方たち。曲の意味をより理解し、より正しい言葉で歌えるように、深く学ばれています。

そんな中に、卒業生ではあるけれど歌手ではない私が参加するきっかけとなったのは、去年の11月の河野先生の古希祝いライブの席でした。20数年ぶりに再会した河野先生の生き生きとした姿(古希とは到底思えない!)、そこで行われた学生時代を思い出す先生のポルトガル語解説、そして楽しそうにブラジル音楽を歌うメンバーの方々との出会い——帰り際には、いっしょに参加したかおるさんと見学の申し出をしていました。

歌唱的にはまだまだですが、在学中に先生が教えてくださったブラジル音楽を長年聴き続け、多少なりとも頭の片隅に残るポルトガル語の知識のおかげで、毎回子どもをあげながら、とても有意義な時間を過ごしています。今は11月に箕面で開催予定のコンサートに向けて、サンバステップを交えたトリステータザや、ルーザなどアントニオカルロスジョビンの名曲の数々に、河野先生の曲の解釈を聞きながら、楽しく取り組んでいます。

ポルトガル語学科に限らず、在学生、卒業生のみならず、機会がありましたら、ぜひ一緒に歌いましょう。

## 鵬翼会

井上晃男 (大C36)

「鵬翼会」は、大阪外大・阪大で中国語を共に学び、研究された方の世代を超えた交流の場として、活動しています。主な活動としては、春の総会と秋の「錦秋の夕べ」の開催、月1回の世話人会の開催、会報「鵬翼」の発行、学生の応援です。

2018年5月13日(日)、大阪大学中之島センターで、「鵬翼会」総会・講演会・懇親会を開催いたしました。生憎の雨でしたが、卒業生から在校生まで、幅広くご参加いただきました。

総会での議事後、昭和47年ご卒業の嶋原信治さんにご講演をいただきました。嶋原さんはトヨタ自動車、日中投資促進機構に勤務をされ、トヨタの中国事業とともに歩んでこられたご経歴、中国と中国自動車産業の現状と未来、大企業グループを代表する駐在員としてのご苦労について、わかりやすくお話しをいただきました。



ご講演後、懇親会へ進み、その中で、大水会長から中国語劇団に対して支援金と公演成功に向けたエールが送られました。出席された語劇団の皆さんから語劇に向ける思いや日頃の学生生活の状況について一言ずつお話しがありました。

今年も11月に「錦秋の夕べ」の開催を予定しています。今回は講師として日本放送協会に勤務されている内山(湯浅)雅子さんをお招きする予定です。

日々変化していく世界情勢の中、楽しく集える場、知的刺激を受ける場、先輩の経験を後輩に伝えていく場として、これからも活動を続けてまいります。

## アラサ〜ビアパーティー2018年

咲耶会幹事・若手活性化委員会委員長 福山泰海 (大H59)



2018年7月14日(土)梅田にてアラサ〜限定のビアパーティーを開催し、一次会では27名、二次会では9名の参加がありました。年齢限定のイベントを企画して感じたのは、みんなどこかでつながっているという感覚でした。一見知らない人でも、話してみれば友達や授業、サークルを介してみんな何かしらで同じ時間を過ごしていました。会場では90年代から2000年代の懐メロをかけ、イントロクイズをしながら司会進行。途中自己紹介ゲームを挟み、各立飲みテーブルで自己紹介をしながら周囲との共通点を探り、どのチームが一番周囲との共通点を多く見つけられたかという企画をしました。「大学時代は個性的な人が多かった」という話題が各テーブルで湧きあがり、随所で共通の友人を発見しては盛り上がりました。気付けばみんな当時懐かしい外大生。自然発生的に二次会も企画されました。二次会では同世代ということもあり、過去の話だけではなく、今の仕事や私生活の話でも盛り上がりました。

参加者の大半は大阪在住の卒業生でしたが、遠くは東京、広島からの参加もありました。また、同日名古屋でも同じ趣旨のビアパーティーが開かれていました。

## 「アヴローラの会」第23回総会

須佐多恵 (院R20)



大外大ロシア語学科・阪大外国語学部ロシア語学科同窓会「アヴローラの会」は、去る6月16日阪大待兼山会館にて、41名参加のもと第23回総会を開催しました。目玉は何といっても講演を引き受けて下さった法橋和彦先生と、「法橋先生がいらっしやるなら」と駆けつけられた田中泰子先生。ご高齢にも関わらず元気潑刺で、驚異的な記憶力を保持されている両先生を囲んでのひと時は、例年以上に思い出話に花が咲き、和気あいあいとした楽しい会となりました。

総会は、まず、代表幹事の挨拶から始まり、続いて来賓の挨拶、会計報告と恙なく進行し、ついに待ちに待った法橋先生の講演です。テーマは「ロシア文学の魅力〜あるいは奇跡《 чудо 》のために〜」。当日は梅雨には珍しい晴天。「青空の下、緑多い素晴らしい会場で皆さんと再会できたこの瞬間を「奇跡」と言わずして何と言いましょ」という言葉を皮切りに、先生は教鞭を執られていた頃と全くお変わりなく、ドストエフスキー、チェーホフ、トルストイなどロシアの文豪の描く「奇跡」を紹介していきます。圧巻はプーシキンの有名な詩「ある女に」。この、美女との出会いの奇跡を詠った詩を先生は絶唱だとおっしゃいました。法橋節が冴えわたった一時間。私たちが身近にあるはずの奇跡に感動できる心を持ち続けたい…。人生への力強いエールをいただいたひと時でした。

続く懇親会や二次会は、両先生との思い出で大いに盛り上がりました。

## IN21回生同窓会 in 徳島 小田敏治 (大IN21)



ご当地持ち回り開催にて今年度は幹事が在徳島市とのことと8月15日阿波踊りの最終日に開催しました。お盆の時期で諸兄には地域行事と重なり出席が難しい方も多々あり9名の出席者で楽しみました。宴会でほろ酔い気分で踊り見物に繰り出し、フィナーレの演舞場での総踊りには踊りの渦に飛び込んで各自各様阿波踊りを堪能したようです。

次回は長野県(北信)での開催が決まりました。

## スワヒリ料理でUjamaa(家族性)を再確認!

竹村景子 (大A38・院A22)



2018年7月15日(日)に、大阪外国語大学記念会館で第28回アフリカ会(大阪大学外国語学部ならびに大阪外国語大学スワヒリ語同窓会)総会を開催しました。スワヒリ語は1981年から大阪外大でアラビア語の副専攻語となり、1986年に専攻として独立したのですが、1期生が卒業すると同時に「語科同窓会」を発足させ、以来、毎年欠かさず集まってきました。

総会は、初期の頃はずっと大阪や神戸あたりのレストランで開催していましたが、年度を経るごとに卒業生の多くが関東方面に出ていくようになったことから、10年ほど前からは東京と大阪で隔年開催することになりました。さらに、結婚して子どもができて、だんだん総会に参加することが難しい状況にある卒業生が増えたこと、また、せっかくなので母校に集まるのがいいのではないかと考えたことから、大阪開催の年は記念会館での「スワヒリ料理パーティー」にして、子連れでも気兼ねなく来てもらえるようにしました。



今年は大人23名、子供12名の35名が集まりました。朝10時半頃から調理を開始し、手際よく準備して予定通り14時には総会をスタートさせることができました。卒業以来初めて参加したという人もいましたが、一緒にわいわい言いながら料理をしていると、自然に学生時代に戻って学年を超えた縦の繋がりが蘇ってきました。スワヒリ語専攻の「科訓」、「Ujamaa(ウジャマ)で行こう!」は、まさに、横だけではなく縦も繋がってみんなが「家族」のように楽しく学び遊ぶということですが、それに違わず、卒業生だけでなくその家族も一緒に食べて笑って、本当に楽しい一日を過ごしました。再来年2020年の大阪開催が現箕面キャンパスの記念会館での最後の回となります。さらに多くの卒業生の参加をお待ちしています。

和やかに節目の第5回総会、過去最多の22人出席

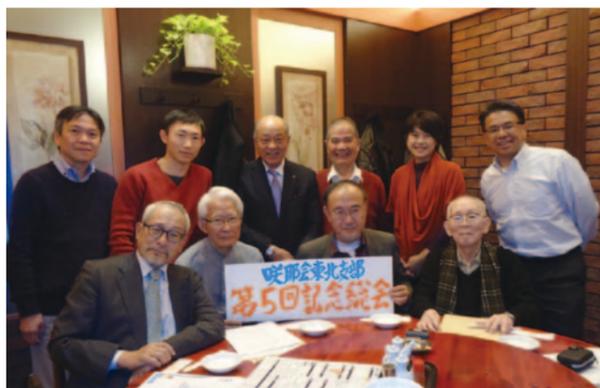


咲耶会北海道支部節目の第5回総会・懇親会が6月30日、札幌第一ホテルで開かれました。出席者は大阪から少徳敬雄・咲耶会会長、東京から樽井一仁同副会長、宮城県から黒木一吉・東北支部長ら来賓を含めて22人の過去最多。卒業間もない若手3人が初出席したのも画期的。満場一致で新支部長に就任した笹山喜市氏は、「広大な支部エリアで引き続き世代を超えた持続可能な活動をめざしたい」と決意を述べました。懇親会では出席者が次々とスピーチに立ち、和やかな歓談が続きました。

総会に先立ち東北大名誉教授、箱木眞澄氏(1959年卒英語)＝福島県福島市在住＝の記念講演「上杉鷹山公の経済政策とその現代的意義」を拝聴、地域創生へのアイデアに富んだ先賢の足跡は現代も大いに学ぶべきだと、痛感しました。

道内在住の出席者は次の通り(数字は卒業年)  
尾池光行(1960年英) 田原佑子(1967年ロシア) 岡田茂(1971年ロシア) 喜多義憲(1972年モンゴル) 笹山喜市(1977年IPワールドウ) 大野貴美子(1987年フランス) 押野記代子(1988年デンマーク) 芳賀慈(1994年IIスペイン)＝以上札幌市、松尾年展(2000年地域ベトナム) 滝川市、佐藤博子(2010年イタリア) 室蘭市、清野真佐美(2014年スワヒリ) 江別市、光井友理(2015年アラビア) 札幌市、長佐古哲也(2016年阪大大学院工学研究科) 札幌市

欧米で活躍の三神 徹先輩を悼む



咲耶会東北支部の第5回記念総会は11月18日、JR仙台駅ビル内の中華料理店で開かれ、1年ぶりの再会を喜び合った。本部より少徳敬雄会長、樽井一仁副会長、それに喜多義憲北海道支部長をゲストに迎えた。少徳会長は「原点に戻って同窓会活動に取り組みたい。毎年600人前後の新入生が入学しており、会員の獲得に向け、忌憚のない意見を」と挨拶。さらに「会費納入会員を2000人(平成28年度は約1600人)まで高める一方、支部活動の活性化にも期待したい」と述べ、特に地方支部の活動強化を望んだ。

黒木支部長の歓迎挨拶の後、フリー通訳の三神徹氏(大S11回、1963年卒、仙台市在住)が「メキシコ、ドイツあれこれ」と題して講演した。三神氏は、長年の海外駐在で得た貴重な体験を紹介。約10年間滞在したメキシコでは1968年当時の五輪大会で日本が開催国を破り銅メダルを獲得したサッカー競技の試合後、メキシコチームが控室から出られなかった裏話や「りんごやバナナにも唐辛子をかけて食べる習慣には正直驚いた」などと述べた。

またドイツでは速度制限のないアウトバーンで、時速130km/hの安全運転指標の看板が掲示され、ごみの分別が進んだ国情などを紹介した。

この後、出席者が近況報告。「えふえむ花巻」パーソナリティーの梅村哲子さん(大V46回、1998年卒)は「東北で同窓会活動が行われていることを知らなかった」と述べ、東北地方の同窓生に対する周知徹底の必要性を語った。

講演された偉大なる先輩、三神徹氏は半年後の2018年4月、病気で逝去されました。享年77歳。ご冥福をお祈り申し上げます。

卒業50周年生記念へのご招待

先日、東京外国語大学の同窓会(一般社団法人)東京外語会の年時総会にて行われた卒業後50年、25年組への慶祝行事および懇親会に参加して来ました(6月23日)。300名を越す多数の参加者、それも特に女性会員の多さに目を惹かれました。たまたま私も卒業50周年であることもあり東大同級の知り合いもおり楽しく会話も弾みました。50周年生は現役を離れても元気あふれる前期高齢者の姿で再会を心から楽しみ、25周年生は現役のバリバリでもあり同窓仲間間での活発な外交活動を繰り広げる姿が目立ちました。参加者からの印象について、50周年生は、「こんなに楽しい再会ならSNS仲間の同級生をもっと呼び集めればよかった」。25周年生は、「久しぶりの同窓生に再会し、大変元気づけられた」。等々の元気な声が弾んでいました。いずれも同窓会への深い愛着が感じられ、事務局が混乱するほどの大盛会でした。

咲耶会東京支部においては、一昨年より卒業50周年の同級生を年次総会にご招待、集合写真撮影とささやかな記念品(お菓子)を差し上げています。まだまだ認知、周知徹底され

ていないため参加者は非常に少ないのが実状ですが、この活動を通じて咲耶会活動への理解と協力を得るよい機会になればと今後も継続して行きたいと考えております。



平成29年度の第1回総会は、11月25日(土)に金沢市内のクラフトビアの店「Futa's」で開催しました。参加者は6名でしたがテーブルでこじんまりと話も弾みました。ここは事務局女子3名のお気に入りの店で、第1回は卒業生のお店という思いから実現したものです。ビールグラスを前に自然と始まる近況報告が主で、この後フランスワインの会に参加される方もいらっしゃいました。

楠根重和支部長(院D7)からは、いつも日独交流において尽力されているお話があります。大阪や福井の集いにも積極的に参加される方です。

総会とはいうと、自分の言語をずっと大切にしている方の話もあれば、クルーズなど旅行の話もあり、自由に話せる雰囲気です。

今年も、皆さまの参加をお待ちしています。

平成29～30年度咲耶会名古屋支部活動状況



当支部では恒例の月例会「三水会」(毎月第三水曜日正午から約2時間の昼食懇談会)をアパホテル名古屋錦5F 日本料理「伊勢」で開催しています。活発な意見交換に花咲き楽しい会となっています。毎回10名前後の参加を得て、政治問題、外交問題、趣味、子供、孫など諸々の話題で楽しい会となっています。是非、ご参加ください!お待ちしております。

平成29年12月9日(土)には総会(忘年親睦会)を開催し25名の参加がありました。咲耶会の財政状況が非常に厳しく、「年会費」を支払って頂くようお願いをしました。又、本会ではゲストスピーカーとして中林速雄氏(大R7 集合写真前列右から4人目)をお迎えし「日本語あれこれ」と題し、1959年卒業後NHKにアナウンサーとして就職。1996年に定年退職されるまで松江、名古屋、岐阜等各地で勤務されたご経験に基づく、大変興味深い講演をしていただき参加者一同大変感銘を受けました。

また、平成30年1月17日(水)夕刻には新年会を開催し、15名の参加を得ました。日本料理「伊勢」の美味しい料理とお酒で歌が出たりして非常に盛り上がり、会員間に尚一層強い絆が生まれました。

尚、本年12月8日(土)12:00～14:30には昨年同様アパホテル11F「ビルゴ」で総会(忘年親睦会)を開催致します。ゲストスピーカーとして土森道雄氏(大TV17)をお迎えし「インドシナ半島:歴史と少数民族。タイ北部山岳少数民族子弟の教育支援活動」と題し講演をしていただきます。詳細は後ろの「支部総会のご案内」をご覧ください。

平成31年1月16日(水)17:30～20:00には今年同様アパホテル5F「伊勢」で新年会を開催致します。皆さまのご参加をお待ちしています。

2017年度の京都支部総会が、例年どおり京都ガーデンホテル「彩宴」(京都市中京区室町御池)で、少徳敬雄咲耶会会長、神谷奈良支部長をはじめ、会員27名の出席を得て開催されました。

元大阪外国語大学教授の正保富三氏(大E1)から、『英語の冠詞』と題してご自身の著書「英語の冠詞がわかる本」から要点を掻い摘んでお話いただきました。全員が真剣な面持ちで講義に聞き入り、久しぶりに学生時代に戻ったかの様子でした。

今年度の総会は、

日時: 10月13日(土) 16:00～

会場: 京都ガーデンホテル「彩宴」

講師: 玉村文郎・新村出記念財団理事長(大F1)

演題: 「新村出博士と広辞苑」

多数の方のご来席をお待ちしています。

本年度の支部総会は、例年より少し遅れて去る6月9日(土)に、奈良公園、春日野にある国際交流会館「麓」別館の教室を借りて、恒例の総会議事を済ませた後、特別にお願いしました、東大寺元別当であられる森本公誠長老に、講演していただきました。



実は、「あと一年」任期を残した現役員が思い切って企画した奈良の凄い人物に記憶に残るような立派な講演をお願いしよう、費用も少し奮発して、最低50人は集めて、それも出来るだけ若い、卒業年から言えば40～50回から後の卒業の人に重点的に案内状を出して、等などいささか力こぶが入ったものになっていました。奈良県在住の卒業生が約1,200名、よし、御常連のどちらかと言えば御年配の支部会員向けに約150通、と今年こそは若い層から新規の参加者の夢を含めて300通、合計450通を発信しました。

31年6月に奈良支部は解散という憂き目に逢うかも知れない…と昨年の支部会員向け御便りに書いたのですが、ま今年これで50とまでは高望みしなくても、控えめで30人は固いというのが幹事一同の切ないような望みでした。結果は：実際に講演会・懇親会に来た人は、合計20名で、うち300通の方からはお二人。また、振込他何らかの反応をいただいたのは150通から約5割、300通の方からは電話が二件でした。今後の奈良支部に一つの深刻な課題が生まれたと思っています。

森本御長老の「アラビア語・イスラーム」と題したお話は実に素晴らしかった、法衣に包まれたその小柄な御姿、小声で、よく通るお声から発するオーラ、というかパワー、レジュメを離れてじゅんじゅんと自由自在に解き進まれたいろいろなアラブのおはなし、奈良・日本の宗教の解説、などでした。京都大学の文学博士で、外大・上本町時代に約10年講師としてアラビア語を教えていただいたとのこと。今回は先生にとっても懐かしい思い出と共においでいただきました。

此の一年は、われらが奈良支部の在るべき姿、将来像に、奈良県在住諸兄姉からの御意見、御建議などをお願い致したく、来年31年は、6月の第一土曜日に総会を持ちます。

よろしく。

## 神戸支部

大江昌子(大B43)

2018年2月24日神戸支部総会にて咲耶会本部の協力の下、約10年ぶりに神戸支部の再スタートを切ることが出来ました。

長年神戸支部を支えて下さっていた佐野博持支部長(C26)、船井洋支部長(大C12)がご逝去され、しばらく休眠しておりますが、諸先輩方の遺志を受け継ぎ、微力ながら神戸支部を盛り上げて参りたいと思っております。

今年の神戸支部総会はサンルートソプラ神戸で開催し、総勢53名(男性25名、女性28名)が集いました。ゲストスピーカーとして、少徳敬雄咲耶会会長(大E11)にご講演頂き、そしてスペシャルゲストとして歌手の木山裕策さん(大S40)に素敵な歌声をご披露頂きました。実は神戸支部では2002年より女子会(神戸美人の会: Kobe beautiful women's society、通称KBWS)が存在しています。KBWSもしばらく休眠状態でしたが、2017年より先に再スタートしていました。



神戸支部総会及びKBWS再始動は大森久美子さん(大DM36)のお声掛けがきっかけでした。「外語アイデンティティを何歳になっても再確認できる、原点の自分に帰ることができるhomeとして、そしてひとりひとりが依って立つプラットフォームとして同窓会はなくはない存在だと信じています。語科やサークルの垣根を越えて大学の名のもとに集える咲耶会は、その多様性あふれる外語ピープルの世界を最も実感できる場になり得るのではないのでしょうか。

(神戸支部総会での大森久美子さん挨拶より抜粋)

## 播但支部

釜谷研造(大E2)

平成30年5月20日姫路市の東天紅で、咲耶会播但支部の総会が開催されました。



播但支部は、名の通り播州地区と但馬地区でテリトリーが広く、いつも集まれる方は、殆どが姫路中心の方です。支部の歴史は60年近いものがありますが、旧制の方は高齢となられ最近では新制の方ばかりで、多い時は30～40の出席がありました。今年は15名のため本部から来て頂くのに気を遣いました。しかし、少徳会長が是非出席すると言われ、お陰様で可成り盛り上がった会となりました。

会合は岩田正美副会長(大R28)の司会により、初めに釜谷研造支部長(大E2)から「学部、年齢、地域を越え出席して頂いた」との感謝の辞があり、続いて少徳敬雄会長(大E11)より同窓会の現状や母校の動向等の詳しい説明を頂きました。

次に、姫路文学館にご勤務されている田中富美子さん(大F32)より、当館の催し、現状等について詳しい説明を聞き、乾杯のあと出席者全員から各々の近況報告があり、続いて獨協大学石田博敏教授(大E32)より、ミニ講演を頂き、最後に石河行雄副支部長(大D10)の挨拶で閉会しました。

会合では皆さんよく喋り、はずみ、歓談の中楽しいひと時を過ごせたと満足しております。

## 丹波支部

梅垣 誠(大E31)

ここ数年、暑くてビール的美味なる季節に総会をしております丹波市支部からのご報告です。前のご報告で、熊の出没情報が相次いでいる旨を申し上げましたが、最近では熊だけでなく猿の目撃情報もちらほら耳にいたします。

来年のNHKの大河ドラマが「明智光秀」に決まりまして、こちら丹波は沸き返っております。本能寺の変のときの光秀の領地は丹波でした。丹波では治世に手腕を発揮した名将として語り継がれております。現在「丹波」は京都丹波と兵庫丹波に分かれてしまい、当丹波市は兵庫丹波を篠山と分け合っております。信長に丹波平定を命じられた光秀は狭隘な山々からなる丹波の平定に四苦八苦したようです。お隣篠山では光秀に攻め落とされた八上城というのがあり、こちら丹波市には黒井城というのがあります。光秀はかなり手こずったようです。江戸時代、丹波市は織田家の末裔の領地で細々と2万石で幕末を迎えました。お隣篠山は親藩の青山家5万石で、外様の織田が悪いことを企まないように目を光らせていたようです。

明智光秀を観光振興の起爆剤にしようと張り切っている面々の一人に外大卒業生で、前の市議会議員選挙で優秀な成績で初当選した小橋昭彦君(大P35)がいます。丹波市の若手議員の中心人物として活躍中です。田舎の代名詞「丹波」でも外大卒業生は大活躍しております。

## 香川支部

小野 博(大E5)



後列左より川井田 修(大DM31) 廣瀬彰彦(大S10) 岡田尚三(大R14) 森本勝幸(大S15) 高井 忠(大E13) 奥田修司(大E52) 前列左より三谷正芳(大E9) 小野博(大E5) 小林立(大C8) 大西晏(R25) 黒田好子(大E14)

平成29年度の香川支部総会は8月19日(土)午後5時より、栗林公園北門近くの「ルポール讃岐」で開かれました。出席者は11名で、和やかな雰囲気終始しました。経済学、海外旅行等、皆さん話題が豊富でした。

さて、支部会員の近況として、大西晏氏(R25)は90歳を越えても平成30年6月の高松交響楽団の定期演奏会でも会長として、またチェリストとして大活躍でした。

終わりに、支部会員の皆様にお知らせします。香川支部総会は、毎年8月の終わりから2番目の土曜日に行っています。前もってご一報くださり、お気軽においで下さいませ。特に若い方々へ。

## 愛媛支部

上田 稔(大K19)

当支部では総会及び懇親会は毎年11月最終日曜日ということで、本年度は11月26日最終日曜日に松山城とその「お堀」を望み、「坂の上の雲記念館」や各報道機関にも近い東京第一ホテルで開催されました。

報道関係に勤務の若い方々のご参加も期待していましたが、それも叶わず残念ですが、参加者は僅か4名となりました。一年ぶりに再会を果たし、昼食を囲みながら、参加者各人の近況報告はもちろん世間の話題等々についての歓談となりましたが、参加者3名が高校の現役の教師であり、私自身も学校関係の仕事をしているということもあって、教育談議に熱が入り、予定の2時間を超えてしまいました。

我々世話役の怠慢に起因すると反省しておる「参加者の減少」を踏まえて、会員名簿の整理、日頃よりの密なる先輩・後輩間の情報交換、さらに今後の参加者を募る方法について、会員名簿の整理、メールだけでなく郵便での連絡も必要か等々の話し合いもありました。他の支部で展開されておる「名簿会社 サラト」の利用も検討していきたいと思っております。

私共協力して若い方々にも多く参加頂き親しみのある和やか愛媛支部として盛り上がり、延いては「咲耶会」の立派な伝統を維持・発展させたいものであります。

尚、今年の支部総会及び懇親会、11月最終日曜日25日12時より予定しております。是非ご参加くださいますよう、ご連絡をお待ちしております。

## 鳥取支部

山西敏博

(言語文化研究科・言語社会専攻・2017年度 満期単位取得)

2018年度より鳥取支部長を仰せつかりました、山西敏博です。

これまでしばらくの間、鳥取支部が休会状態であったと伺い、2017年11月の北海道支部での咲耶会での初参加、そして12月における大阪大学全体の東京(関東)同窓会に初参加をした事から「ぜひ、鳥取県でも咲耶会の活動を復活させたい!」という思いから、支部長に立候補をさせて頂きました。

2011年、大学院博士後期課程より言語文化研究科(大阪大学外国語学部・旧大阪外国語大学の上位に該当する大学院)に入学を致しましたが、満期単位取得にて課程を終えた小生に取りまして、この「咲耶会」の存在は全く知らされず、「いかにして同窓生と交流をつなぐことができるのか」と模索していたところに、このような同窓会の存在を知り、思わずこの会に飛びついたのでした。

「日本国内における人口最少県」と言われるこの鳥取県ですが、逆に言えば人々同士の交流は密になりやすい事から、むしろ「人【交】は最多の県」なのです。この砂丘の大地より改めて「咲耶会」の交流を深めるべく、本年度は11月頃に鳥取市内にて「同窓会」を開催致します。ぜひとも皆さまご参集下さいませ。詳細なご連絡は後ほどお送り致します。よろしくお願い申し上げます。

## 宮崎支部

近藤哲二(II S10)



平成 29年11月 17日開催の同窓会出席者(13名)です。(敬称略)  
戸高昭彦・弓場照美・宮田泰雄・笹原敬生・米田健一・川野道生・前田陽一郎  
竹前望美・木崎宣博・杉田亨一・井手田篤・斎藤康平・近藤哲二

宮崎支部は、毎年同窓会を本部の総会の前後に開催しています。本年は、残念ながら公私ともに忙しく現時点での支部幹事会を開けていません。

この会の特徴は、老若男女の幅広い世代が集いあうこと。2時間あまりですが、それぞれが近況を語り、また、それを聞くことにより、みなさんがそれぞれの立場で社会に貢献されているなと感じ、さあ、私も明日から頑張ろう。という気持ちを起こさせてくれるところにあるのではないかと思います。

昨年同窓会案内時には、何人かの新しいメンバーとも連絡が取れました。ほかの行事と重なり参加できない方もおられました。また、「支部だより」をご覧になり新しい参加者が参加されることを期待しています。

今年も一人でも多くの同窓生が参加されますよう、しっかり取り組んでまいります。

## 沖縄支部

金城徹男(II D5)

咲耶会沖縄支部は2016年役員改選を行い、支部長 金城徹男、事務局長 尾形希和子、幹事2名の体制でスタートしました。我が沖縄支部は1981年に結成以来まもなく40年を迎えようとしています。ご承知のように1972(昭和47)年以前は、沖縄はアメリカの施政権下にあり当時の外大の先輩方はパスポートを持ち、留学生という形で母校の門をくぐったとのことでした。

日本復帰以後、政府機関の設置、企業の進出等により、人口も100万から、140万余となり、国全体が人口減少という状況にあるなかで、沖縄県は増加傾向にあると云われています。沖縄支部発足当初は会員も沖縄出身者が大半だったようです。現在咲耶会会員は県内在住70名余、県外、国外居住者25名余です。正確に把握しているわけではありませんが、沖縄県出身者以外の会員の方が多いのではないかと思います。

現在オリンピック、パラリンピックの年に総会を行っていますが、一人でも多くの会員に参加を呼びかけようと、去年2017年、役員数名で会合を持ち、本年年末に協議と親睦の集いを持つ予定です。母校も開学100周年を迎えようとしています。我が咲耶会沖縄支部も母校のさらなる発展に貢献すべく、会員を結集していきたいと思っています。

## マニラ支部

小池由香理(阪大 PH1)

マニラ生活1年を目前に、驚くニュースが飛び込んできました。**【フィリピン中央銀行は「偽の一万ペソ札」に注意喚起】**

現在紙幣は20、50、100、200、500、1,000ペソのみですが、SNS上で「一万ペソ札」が話題になっており、中銀が警告しているとのこと。既存紙幣の偽物ならまだしも、最高額の10倍の新紙幣を作りあげてしまうところに微笑ましさを感じました。

お金に関して言えばお釣りの返し方もなかなか興味深い。510ペソのお釣りは100が4枚、50が1枚、20が3枚という内訳。さらに、日本とは違いほぼ全ての紙幣に政治家が載っているなど、お金一つとっても文化の違いをひしひしと感じる毎日です。

関西人丸出しのお金の話はさておき… マニラ支部は引き続き、定期的にリトルトーキョーで集まっています。住む人を飽きさせないフィリピンネタをつまみに。こちらで歌のレッスンに通ったり、歯列矯正を始めたりと、皆さん有意義に過ごされています。また5月には、大阪外大、阪大、東京外大の三大学合同会が開催され、28名が集まりました(うち留学生8名)。名古屋大学から一緒に集まりたいとの提案もあるようです。四大学合同会も近い将来、実現するかもしれません。

末筆ながら、大阪北部での震災の被災者の方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

## 香港支部

小林敏子(東アジア大C57)

またまた香港支部、3年連続の投稿です。



今年も恒例の旅行に行ってきました。目的地は震災直後の台湾・花蓮です。地震が起きた時は正直どうしようか悩んだのですが、すぐに復旧したようなので決行しました。毎年同じメンバーばかりですが、今年は神戸外大の方も参加してくれました。人数が多いのでホテルではなく、予算を抑えようとユースホテルにしたのですが、意外と設備や立地もよく、大満足でした。

台北から花蓮までは電車という手段もあるのですが、週末ということもあり、予約が難しいということで車をチャーターしました。結果、電車では見れないような景色に出会うことができました。花蓮では、タロコ国立公園やホエールウォッチング、沢登りとアクティビティが充実した旅になりました。

香港支部では、毎年1~2回の旅行を企画して親睦を図っています。行先は個人では行きづらい場所を選んでいます。そこに咲耶会の支部があれば、ぜひ交流をしたいと考えております。大阪外大がなくなり、咲耶会に入ってくれる卒業生が減っていて、会の持続が難しくなっていますが、外大生スピリッツを大事にもっと輪を広げていきたいと思っています。

ぜひ、皆さんも香港にお立ち寄りの際は連絡をいただければと思います。

## ハノイ支部

中本修一(開発大 48)



咲耶会ハノイ支部は、東京外大と合同で開催している「ハノイ外語会」をベースに年3~4回程度集まっております。近年のベトナムブームの影響もあり、他大学の同窓会も増えて参りましたが、他同窓会にない特色として現役学生の参加率が高いことが挙げられます。阪大ベトナム語専攻の学生を中心に

常時5名程度がハノイ国家大学等で学んでおり、会場時には留学生生活の苦労話やローカルグルメ、最新ベトナム語情報など幅広く情報提供頂いております。また、阪大の同窓会組織である「いちよう会」とも連繋を密にしており、咲耶会メンバーによる同窓会への参加を通じ、積極的に交流を図っております。今後については、ベトナム南部の「ホーチミン外語会」との連携や支部メンバー向けの「勉強会」企画など、他大学の同窓会にはない「外語」ならではのイベントを考えていきたいと思っております。当地に留学または赴任される際には、是非ハノイ支部の活動にご参加ください。お待ちしております。

## バンコク支部

藤岡 諒(阪大 T6)



咲耶会バンコク支部では2017年も今までの伝統を絶やすことなく、東京外国語大学と合同でのクリスマスパーティーやゴルフコンペ外大戦といった定例の活動を実施いたしました。また、不定期では会員同士の食事会も数ヶ月に1度の頻度で実施をし、会員間の親睦を深めてまいりました。

さらに、上記の会員間のつながりを深める活動に加え、大阪大学タイ同窓会への参加を通じた大阪大学同窓会会員との交流や、大阪大学カップリング・インターンシップ(CIS)へ参加し訪タイした現役大阪大学生、タイの大学へ留学中の現役外国語学部タイ語専攻学生との食事会などを通じた学生との交流といった、咲耶会外の団体やグループとも様々な形で交流を持っています。

咲耶会バンコク支部は新たな若い会員の登録もあり、継続的に持続発展していている最中です。タイらしく、どなたでも気軽に楽しんでいただける雰囲気的活動をしておりますので、ご興味のある方は、osakagaidai@bkk@yahoo.co.jpにご連絡ください。



7月3日午後6時より、恒例のカリフォルニア大学UC夏季留学生歓迎交流会(OU-UC Get Together Party)が、“阪大日米学生会”を中心に、学部を横断するボランティア学生主導(Student Driven Faculty & Staff Fueled)で、またUC大阪オフィス・北米同窓会日本支部共催、咲耶会・各学部国際交流サロンなどの協賛で、大学会館・アセンブリーホールを舞台に賑やかに開催された。連日の猛暑の中、100名(内 UC生38名、UCボランティア7名、阪大生ボランティア39名)を超える学生が参加し、皆が役割を持ちゲームなどでも会を盛り上げていたが、中でもゲストのアカベラサークルの‘Ekspiari’や、“マチカネワニ”の登場は、会場を一際大きく湧かせていた。

## 支部総会・イベントのご案内

### ■平成30年度 東北支部総会のご案内

と き 平成30年11月17日(土) 午後4時～  
ところ JR仙台駅ビル1階中国料理店「中嘉屋食堂」  
会 費 4,000円  
ゲスト 齋藤小夜里氏  
(2006年、スペイン語科卒、現在、秋田県庁勤務)  
演 題 「青年海外協力隊の目を通したネパールの魅力」  
申込先 中村勝彦・支部事務局長 (080-6560-6708)  
連絡先 黒木一吉・支部長 (090-6224-3443)  
締切り 平成30年10月末日

### ■平成30年名古屋支部総会(忘年親睦会)のご案内

日 時 12月8日(土) 12:00～14:30  
場 所 アパホテル名古屋錦 11Fビルゴ  
名古屋市中区錦3丁目15-30 TEL 052-953-5111  
会 費 4,000円(和食弁当と飲み物)  
講演会 講師：土森道雄氏(大TV17)  
演 題 「インドシナ半島：歴史と少数民族。タイ北部山岳少数民族子弟の教育支援活動」  
講師プロフィール：外大卒業後、日本陶器(現 ノリタケカンパニーリミテド)入社。タイ、カナダ、アメリカなどに駐在。退職後、現在まで社団法人海外事業支援センター名古屋のアドバイザーとして活躍中。名古屋市在住。  
申込み 11月20日締切  
申込先 名古屋支部幹事 白岩 修  
TEL & FAX：052-806-7873 携帯：090-4865-8172  
メール：shiraiwa1123@yahoo.co.jp

### ■大阪外語同窓会京都支部例会

日 時 平成30年10月13日(土) 16:00～  
会 場 京都ガーデンホテル「彩宴」  
講 演 (演題)「新村出博士と広辞苑」  
(講師)玉村文郎(大F1)新村出記念財団理事長

略号( )内は卒回を示しています。

◎大＝大阪外国語大学(一部)  
大阪外国語大学 昼間主コース  
大阪大学 昼間主コース  
・C＝中国語学科、中国語  
・K＝朝鮮語学科、朝鮮語  
・M＝モンゴル語学科、モンゴル語  
・IN＝インドネシア・フィリピン語学科、  
インドネシア語  
・IP＝インド・パキスタン語学科  
・TV＝タイ・ベトナム語学科  
・B＝ビルマ語学科、ビルマ語  
・A＝アラビア語学科、アラビア・  
アフリカ語学科、アラビア語  
・P＝ペルシア語学科、ペルシア語  
・E＝英語学科、英語  
・D＝ドイツ語学科、ドイツ語  
・DM＝デンマーク・スウェーデン語学科、  
デンマーク語  
・F＝フランス語学科、フランス語  
・IT＝イタリア語学科、イタリア語  
・S＝イスパニア語学科、スペイン語  
・PB＝ポルトガル・ブラジル語学科、  
ポルトガル語  
・R＝ロシア語学科、ロシア語  
・J＝日本語学科、日本語  
・PH＝フィリピン語、フィリピン語  
・T＝タイ語  
・V＝ベトナム語  
・H＝ヒンディー語  
・U＝ウルドゥー語  
・TR＝トルコ語  
・SH＝スワヒリ語  
・HG＝ハンガリー語  
・SD＝スウェーデン語  
◎阪大＝大阪外国語学部  
◎臨＝第五臨時教員養成所  
◎短＝大阪外国語大学短期大学部  
◎II＝大阪外国語大学(二部)  
◎夜＝大阪外国語大学 夜間主コース  
大阪大学 夜間主コース

[昼間主コース・夜間主コース]  
国際文化学科  
・言語＝言語・情報専攻、言語専攻  
・日本語＝日本語専攻  
・比較＝比較文化専攻  
・国際＝国際関係専攻  
・開発＝開発・環境専攻  
地域文化学科  
・中北欧＝中・北欧地域文化専攻  
・南欧＝南欧地域文化専攻  
・北米＝北米地域文化専攻  
・中南米＝中南米地域文化専攻  
◎院＝大阪外国語大学大学院  
大阪大学大学院  
○前＝言語社会研究科博士前期課程  
言語文化研究科博士前期課程  
地域言語社会専攻  
・東ア＝東アジアコース  
・東南ア＝東南アジア・オセアニアコース  
・アジア＝アジア・アフリカコース  
・ロ東欧＝ロシア・東欧コース  
・中北欧＝中・北欧コース  
・南欧＝南欧コース  
・アメ＝アメリカコース  
・日本特＝日本語・日本文化特別コース  
・通翻＝通訳翻訳学専修コース  
国際言語社会専攻  
・国際＝国際コース  
・日本＝日本コース  
言社＝言語社会専攻  
日日＝日本語・日本文化専攻  
○後＝言語社会研究科博士後期課程  
言語文化研究科博士後期課程  
・言文＝言語文化専攻  
・言社＝言語社会専攻  
・日日＝日本語・日本文化専攻

UEDA GAKUEN

学校法人 上田学園  
上田学園  
上田学園  
上田学園

http://uedagakuen.ac.jp/

学校法人 上田学園は、70年以上の歴史を  
持ち、ファッションやデザイン分野の  
第一線で活躍するクリエイターを  
輩出し続けています。

(学)上田学園 理事長

上田哲也 大R24

## 短 信

総会出欠ハガキの短信欄からの転載です

三藤 勝(C12)  
高齢になると、自宅周辺を散歩するのが唯一の運動です。

杉谷好一(C19)  
会の運営に関する少徳会長のご尽力に感謝申し上げます。阪大外国語学部からの入会者が同期の25%少々为由、多いに越したことはありませんが、これは貴重なコアーとご理解下さい。小生、近く95才、総会は欠席しますが、盛会を!

近藤 魁(C21)  
卒業後、日鉦北京事務所勤務を命ぜられたが、戦後縁あって、二瀬工業所に勤め、暇なので嘉徳劇場等に見物に行き、荒太郎の「弥次喜多」を廻り舞台上見たりして3年間すごした。

寺田 傳(S21)  
A太郎：此頃の学生はInternetに取り組み本は読まないという。昭和の世代は読書に熱心だ。このように大分裂! B助：イヤ、書物兼Internetの連中もいるよ。

田村 滋(C22)  
今年91歳。両手に杖ついて歩いています。入学した時、三年生の学生にひどい歓迎を受けたことを思い出します。「入学おめでとう」なんてことは絶対に言えない!と櫃上の男。「そうだ!」と教室の周りの三年生たち。長い説教のあと、「かんがら節」という歌を覚えてもらう

秋山吉之助(M22)  
93才となりどうか元気でやっています。

藤井 浩(IP22)  
93才胆石の手術で入院しました。元気で。”病室の天上みつめ秋來たる”

周藤道生(C23)  
91歳になりましたが元気で。2人の娘の家に寄宿してのんびり過ごしています。

山尾昭一郎(D23)  
卒寿になりました。20年前脳卒中で倒れ後遺症で行動不自由になり、医療法人監事の他は弁理士業務も休業いたしております。

川上喜一郎(E24)  
人生色々あったが、今や米寿を過ぎ間もなく卒寿になろうとしています。先は永くないと思いますが、何とか東京オリンピックは元気で楽しみ、興奮したいと思っています。老若男女の諸君に宜しく。

石川欣也(IN25)  
外出の叶わぬ老齢になり、雑学三昧の日々です。

込茶三郎(C26)  
御蔭様で元気に過しております。

吉田勝博(IN26)  
四年前、喉頭癌をオペで焼取ってから回復し、以後元気にやっております。感謝。

調子 肇(IP26)  
現在居宅介護の妻と米寿を迎え、同じ屋敷内で既に定年を過ぎた長男、次男の二家と静かに過しております。家内の介護は多忙ですが、今はこれが生きている印です。

故 橋本彌壽男(S26)  
父は平成29年6月5日に亡くなりました。生涯母校を想い、同窓会報を楽しみにしていました。生前には大変お世話になりました。

岩崎義親(F27)  
月に2回、博多の場末をウロウロ散歩しています。ときにはパリ祭を口ずさみながらです。

芦田茂幸(大C1)  
87才。元気にしています。

片山 黎(大E1)  
昨年、短信欄に出しました戒老録について：1.きびしさによる救済 2.生のさなかで 3.死と馴れ親しむと3章に小見出し通し100余の中、1.老人

として何事にも感謝の表現を忘れない 2.失敗失言の言いわけに使わない 3.生涯努めてのよく捨てること、ものをへらしておくことを心掛けています。

山根矩昭(大C2)  
徒らに馬鹿を重ねるのみです。卒業生諸氏・恩師各位様の御壮健を祈念致します。幹事諸氏御苦勞に存じます。

河野石根(大IN12)  
足痛で歩きにくいので欠席します。  
松永和泰(大S2)  
咲耶会の益々の発展を祈念致します。  
前川清一郎(大TV3)  
1期生谷さん、3期生松井・葉山・前田・岡島、毎年6名加茂川の料亭「京新山」で5月と11月会う。全員元氣86才!

岩崎英夫(大E3)  
所用のため出席出来ませんが盛会をお祈り致します。担当の方々、お世話さまです。有難うございます。

玉利 虹(大S3)  
外大が何故阪大と一緒にになったかがよく解らなかつたが、咲耶28号のP6の一文でよく解った。

井戸太喜男(大C4)  
関西在住の同学で、奇数月に一回、ミニ同窓会(昼食会)を開催し、旧交を温めております。

前川 奨(大C4)  
来年3月85歳になります。元気に生き延びています。貴会益々の発展を祈ります。

池田 修(大A4)  
私、池田修は病気のため、咲耶会の役員を退任致します。ありがとうございました。

金澤輝彦(大E4)  
昭和6年生れ86才。大学卒業後は富士火災海上保欄停年58才、その後役員として約6年、その後再度関連会社に勤務後退職。その後は各地を旅して来た。現在はなお元気に過しています。

西 知夫(大D4)  
身体的都合で欠席します。

竹中清蔵(大F4)  
10年経ちましたが、東にいる者には阪大外国語学部の統合による学際的な小さくてもいい力強い変化は伝わってきませんね。

三好憲治(大F4)  
元気でのんびり過しています。

増田栄三(大C5)  
雑白な知識しかありませんが、近頃の社会状況は耐え難いものがあります。私は相変わらず元気です。

故 大石正晴(大E5/院E4)  
昨年2016年4月5日に大石正晴は亡くなりました。同窓会を楽しみにしております(83才でした)大石久美(妻)

市間 博(大D5)  
小金井市選挙管理委員会委員長を務めています。中学校卓球部の外部指導員として部活動を教えています。

西 彰(大D5)  
お蔭様で健康を維持しています。でもゴルフは筋力のおとろえて、常に3桁になります。でも楽しいです。大阪日独協会理事在任中です。

野田健史(大F5)  
妻の7回忌を9月16日に行いました。83才未だ生きています。

原田 修(大F5)  
フランスは一回、中国は二百数十回の渡航。学友も中国語出身者が多い。多病息災?も今度の誤嚥性肺炎で返上か…!?

中島章夫(大C6)  
小生お蔭様で81才になりましたが、元気に過しております。間もなくお正月には4人の息子達とその家族(孫6人)が鎌倉の自宅に集まるのが楽しみです。

寺嶋正直(大IN6)  
心身の衰えを痛感した余生を送っています。

中村 徹(大IN6)  
在阪の諸君との食事は続いています。

野村敏一(大A6)  
マニラ市の水道事業に取り組んでいます。

清水重雄(大E6)  
81才まで仕事が出来ました。事業の100%を次男清水俊雄が継いでくれました。大阪城や心齋橋筋を往復2～3時間かけて歩いています。毎月、第一・第三土曜にはA.C.Cで英文講読の講座を受けています。

北尾利夫(大D6)  
「知っていそうで知らないノーベル賞の話」上梓(平凡社新書)以来講演や執筆の依頼、マスコミの取材などで80才を過ぎて未だに何かと忙しく過しています。(86-91年住友商事ストックホルム勤務)

保田武司(大D6)  
「日々これ好日」一日一生の想いで余生を楽しんでいます。

恒成喜久子(大F6)  
会報『咲耶No.28』の表紙、とても懐かしく拝見しました。上八学舎で後半の2年間学生時代を過しました。烈士の碑については、故山中教授(フランス語)や咲耶会長野尻先輩が熱い思いで話されていたのを覚えています。咲耶編集委員の方々のご尽力に厚くお礼申し上げます。今から2021年の外大創立100周年楽しみにしています。

宇野弘司(大S6)  
咲耶28号と編集後記を拝読しました。表紙の写真から上八学舎時代をなつかしく思いました。今年、孫(女子)が本校に入学し、学生生活をエンジョイしているところです。

加来洋二郎(大C10)  
2017年10月グリー同期の平泉旅行は台風の為、関西勢が参加出来ず残念。来年は20回目まで傘寿の祝い旅行。咲耶会本部・東京支部の幹事役、編集委員をこの秋終えました。上海本部を福島勝彦、北京支部を服部健治の両君と設立出来た事が大きな喜びでした。みなさん大変お世話になりました。有難う。再見!

高野郁男(大IN10)  
ご盛会をお祈ります。

松木 優(大IN10)  
インドネシアにまだまだ関心を持ち続けております。

藤山陽三(大C11)  
娘と私の二人で暮しています。娘が勤めに出た後は家事を行い、あとは英語の勉強と趣味の囲碁をやっています。囲碁は地元の公民館の囲碁クラブへ週に一度出かけています。病院通いは高血圧の薬を買いに内科へ、左膝痛を注射で治すのに整形外科へ、二週間に一度ずつ通っています。

小原一浩(大IN11)  
定年退職後、ボランティア活動の延長線としてNPO法人を立ち上げてから10数年経過。現役中は縁のなかつた福祉・介護の分野で活動中。介護福祉士・ケアマネジャーを経て、今年には社会福祉士試験に合格し成年後見にも取り組む予定。一方再来年4月の市議選(3選)にも挑戦予定。忙しい毎日乍ら、自ら選んだ道、生涯現役を実践中です。

友金 守(大IP8)  
凡そ20年前の事になるうか、和歌山のJR御坊駅プラットフォームでの事だ。凛しい男性が駆け寄ってきて「先輩!

お元気で何よりです!」と大声で出し握手。「どうして判った?」即座に先輩は母校のマーク入りのベルトをお使いで!。同窓の顔を心の底から感じた思い出の一つだ。外大美術同好会OB・OGの秋の旅行中の出会い。

井上善次(大E8)  
80才をすぎて家にこもることが多くなりなりました。

菊井忠雄(大E8)  
不相変、散歩三昧の毎日を過しています。大阪城や心齋橋筋を往復2～3時間かけて歩いています。毎月、第一・第三土曜にはA.C.Cで英文講読の講座を受けています。

屋敷 潔(大E8)  
前回、総会に出席しましたが、お歴々の挨拶に大半の時間が取られ、場所及び時間の制限もあって、個人的な面談・歓談等に満足な時間が取れずにとまりました。今回は、海外日程などと重なり勝手ながら出席出来ません。次回は、可能なら、出席者間の相互交流に充分な場所と時間が提供されますよう願っております。

藤田友彦(大D8)  
81才になり友人が次々とダウン。当方も"フレイル"状況です。健康寿命を88才に設定します。

望月敬三(大D8)  
今日は!いつもお世話を賜り有難うございます。皆様のご健康を念じています。

和田 衛(大S8)  
今年のスペイン語1960年卒の同窓会は咲耶会と先生のご協力を得て、眞面学舎・語劇祭訪問を中心に楽しむ事にしています。

塚崎義弘(大R8)  
二年前、脳梗塞になりデイサービスで週4日過ごす日々です。

谷 昌宏(大IP9)  
咲耶28号と編集後記を拝読しました。表紙の写真から上八学舎時代をなつかしく思いました。今年、孫(女子)が本校に入学し、学生生活をエンジョイしているところです。

加来洋二郎(大C10)  
2017年10月グリー同期の平泉旅行は台風の為、関西勢が参加出来ず残念。来年は20回目まで傘寿の祝い旅行。咲耶会本部・東京支部の幹事役、編集委員をこの秋終えました。上海本部を福島勝彦、北京支部を服部健治の両君と設立出来た事が大きな喜びでした。みなさん大変お世話になりました。有難う。再見!

高野郁男(大IN10)  
ご盛会をお祈ります。

松木 優(大IN10)  
インドネシアにまだまだ関心を持ち続けております。

藤山陽三(大C11)  
娘と私の二人で暮しています。娘が勤めに出た後は家事を行い、あとは英語の勉強と趣味の囲碁をやっています。囲碁は地元の公民館の囲碁クラブへ週に一度出かけています。病院通いは高血圧の薬を買いに内科へ、左膝痛を注射で治すのに整形外科へ、二週間に一度ずつ通っています。

小原一浩(大IN11)  
定年退職後、ボランティア活動の延長線としてNPO法人を立ち上げてから10数年経過。現役中は縁のなかつた福祉・介護の分野で活動中。介護福祉士・ケアマネジャーを経て、今年には社会福祉士試験に合格し成年後見にも取り組む予定。一方再来年4月の市議選(3選)にも挑戦予定。忙しい毎日乍ら、自ら選んだ道、生涯現役を実践中です。

友金 守(大IP8)  
凡そ20年前の事になるうか、和歌山のJR御坊駅プラットフォームでの事だ。凛しい男性が駆け寄ってきて「先輩!







本部	会長	連絡先	E-mail or TEL/FAX
	少徳敬雄 (大E11)	事務局 〒562-8558 箕面市粟生間谷東8-1-1 大阪大学外国語学部内	TEL&FAX (072)728-2327 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
支 部	支部長名		
北海道	笹山喜市 (大IP25)	喜多義憲 (大M20)	〒062-0901 札幌市豊平区豊平一条3-1-33-1003 yokok@22351@gmail.com
	黒木一吉 (II E10)		kukoki@o-bb.net
東 北		中村勝彦 (大M34)	〒440-0893 豊橋市札木町69-302 nakamura.shokado11@gmail.com
東 京	久保義昭 (大S14)	樽井一仁 (大R23)	〒114-0003 東京都北区豊島5-2-20-1603 taru2742@yahoo.co.jp
静 岡	下石京子 (日本語大45)		loverswalk1975@hotmail.com
名古屋	塚崎義弘 (大R8)	白岩 修 (大D19)	〒465-0066 名古屋市名東区梅森坂西1-801-107 shiraiwa1123@yahoo.co.jp
岐 阜	安田哲司 (大IN30)		〒501-6241 羽島市竹鼻町2980-13 changer_lavie_cpta@nifty.com
石 川	楠根重和 (院D7)	吉田孝子 (大IT37)	〒921-8171 金沢市富樫1-10-4-601 taka5yomako@gmail.com
福 井	山下裕己 (大S23)	森 茂 (大E4)	〒910-0002 福井市町屋3-25-23 irom@biscuit.ocn.ne.jp
京 都	宮川督三 (大S16)	西尾 齊 (大E11)	〒606-8404 京都市左京区浄土寺下南田町70 dkals108@kyoto.zaq.ne.jp
奈 良	神谷忠雄 (大E4)		〒630-8424 奈良市古市町31-32 mahoroba-nara-kamitani@iris.eonet.ne.jp
大 阪	金村義夫 (II E10)		〒540-0012 大阪市中央区谷町1丁目7番3号 天満橋千代田ビル ykanemun@forest.ocn.ne.jp
神 戸	大森久美子 (大DM36)		〒662-0835 西宮市平木町3-21 ルモンド西宮229号 kmmkom93@yahoo.co.jp
播 但	釜谷研造 (大E2)	岩田正美 (大R28)	〒675-0053 加古川市米田町船頭401-54 masayoshi_iwata@pref.hyogo.lg.jp
丹波市	岸田 功 (大IN15)		〒669-3309 丹波市柏原町柏原47 rskq59484@zeus.eonet.ne.jp
香 川	小林 立 (大C8) 代行	小野 博 (大E5)	〒760-0004 高松市西宝町2-3-14 TEL&FAX (087)862-0836
徳 島		小田敏治 (大IN21)	〒770-0003 徳島市北田宮3丁目2-34 tom_oda@emn.ne.jp
愛 媛	上田 稔 (大K19)		cogwayueda@yahoo.co.jp
		岡井真知子 (大D45)	〒791-8025 松山市衣山1-238-4 tenderlovedragon@gmail.com
高 知		周藤 健史 (大S30)	〒780-0024 高知市前里335-7 tkmrn1917825@me.pikara.ne.jp
岡 山	草野 徹 (大DM23)		〒701-1221 岡山市北区芳賀5112-98 akirakusano0319@softbank.jp
広 島		山岡 哲 (大IT20)	〒733-0814 広島市西区己斐西町19-37 yamaoka@tosco.co.jp
鳥 取	山西 敏博		〒689-1112 鳥取市若葉台4-2-20 A-102 ezm11541@nifty.ne.jp
福 岡	吾郷健二 (大S10)	中尾史子 (大IN27)	〒815-0083 福岡市南区高宮2-18-12-501 hirako@lisa.co.jp
熊 本	かじえいせい (大S21)		〒861-2405 熊本県阿蘇郡西原村出の口1547-1 dreamincountry@gmail.com
宮 崎	近藤哲二 (II S10)		〒880-1101 宮崎県東諸県郡国富町大字本庄1720-2 tkondo@yahoo.co.jp
沖 縄	金城 徹男 (II D5)	尾形希和子 (大IT30)	〒903-0812 那覇市首里当蔵町1-4 沖縄県立芸術大学 芸術学専攻 k-ogata@okigei.ac.jp
北 京	中嶋清治 (大C21)	斉藤恵美 (大C44)	(送付物宛先) 100044 中国北京市海淀区首体南路6号 北京新世紀日航飯店写字楼1256室 北京首旅日航国際 酒店管理有限公司 佐藤理恵 doragonpekin@yahoo.co.jp
上 海		伏村和展 (大C59)	sh_oufs@yahoo.co.jp
香 港	太田明雄 (大IT26)	小林敏子 (東アジア大C57)	(送付物宛先) Flat 9B, Chuen Fat Building, 9 Valley Road, Ho Man Tin, Kowloon, Hong Kong 4styles.enterprise@gmail.com
ソウル	渡邊浩一 (大K35)		Daiwa Securities Capital Markets Korea Co., Ltd 20 Fl.&21Fl., OnelFC, 10 Gukjegeumyung-Ro, Yeongdeungpo-Gu, Seoul, Korea kwatanabe@kr.daiwacm.com
ジャカルタ	内原正司 (大IN12)		JL. Senjaya 4, No. 2, Kebayoran Baru, Jakarta Selatan Indonesia uchihara@sgl.co.id
マニラ	テンマタイ柴垣都喜代 (大E25)		# 16 Waling-waling St., Tahanan Village, Paranaque City, Metro Manila Philippines 1720 tsukiyotenmatay@gmail.com
バンコク	川村芳範 (大TV24)	工藤 博 (大TV30)	kawamura-yoshinori@earth-chem.co.jp kudo@technoresin.com
		阪本法子 (開発・環境大47)	Ms.Noriko Sakamoto #2007 Cape House Serviced Apartments, 43 Soi Langsuan, Ploenchit, Road, Lumpini, Pathumwan, Bangkok 10330 Thailand osakagaidaiykk@yahoo.co.jp
ハノイ外語会	勝原尚実 (大B24)		n.katsuhara@shikokucable.vn
ヤンゴン外語会	松島勇治 (大B27)		centro318@gmail.com
ニューヨーク		石田佳子 (大D29)	230 East 44th Street # 3C New York, NY 10017 USA yishida@rcn.com
ロサンゼルス	望月一郎 (大E25)		951 Kingsley Drive Arcadia, CA91007 USA ichimochizuki@yahoo.co.jp
		西川ノーマン裕子 (大TV36)	4060 Alla Road, Los Angeles, CA 90066 USA hirokonauermann@gmail.com
サンパウロ	平野 茂 (大S20)		Av.Amgelica, 727 Apto.72 Bairro Higienopolis, Sao Paulo-SP, Brasil CEP 01227-000 hiradesco@hotmail.com
		草薙綾子 (中南米大PB48)	Alameda Santos, 705-cj. 17-Cesar Sao Paulo-SP- Brasil-01419-902 wec@wecbrazil.com
ロンドン			
デュッセルドルフ	片岡 惇 (大S4)	小玉亜衣 (大D52)	Grenzstr. 33 40670 Meerbusch Germany sakuyakai_dus@yahoo.co.jp
パリ	松本隆男 (大F4)		c/o Mr. Takao MATSUMOTO 11 Rue Delabordere 92200 Neuilly / Seine France matsumototakao@netntt.fr
ミラノ			
モスクワ	岩本 茂 (大R18)		c/o JAPAN TOOL SERVICE 119049 Ul.Korovij Val dom7, kv168 Moscow iwamoto@jtools.biz kingkong4152@aol.com
シドニー外語会		河原一夫 (大DM40)	45 Moree Street Gordon, 2072 NSW Australian kawahara345@oki.com

化学薬品・食品添加物



代表取締役 磯田 良一 (大IN3 / 昭和30年卒)

〒336-0936 埼玉県さいたま市緑区太田窪3-15-14

TEL : 048-887-2943

平成30年度 咲耶会役員名簿

名 誉 会 長	幹 事	幹 事
大内 一 院 S13	三次召尚 II C5	松本健二 院 S24
会 長 少徳敬雄 大 E11	西村朋也 大 TV22	大辺理恵 院前中北欧 7
副 会 長 宮崎衛夫 大 IN13	石野伸子 大 D22	山瀬靖弘 大 SH56
” 大水 勇 大 C15	福富奈津子 大 C24	福山泰海 大 H59
” 井上泰子 大 E15	青野繁治 院 C12	大 学 役 員 岸田文隆 院 K15
” 樽井一仁 大 R23	笹原敬生 大 IN27	” 竹村景子 院 A22
幹 事 藤本和貴夫 大 R12	河井洋子 大 R27	会 計 監 査 役 荒木和夫 大 DM18
” 前田征信 大 K16	村上忠良 大 TV36	” 岡本晶子 大 S29
” 中塚博己 大 S18	大森久美子 大 DM36	相 談 役 磯田良一 大 IN3
” 白岩 修 大 D19	上原順一 院 R22	

『咲耶』編集委員会 委員長 井上泰子 / 委員 上原順一・松本健二・大辺理恵 / 事務局 天野豊子・西田貞子・大熊美紀

◆ 個人情報の取扱いについて

咲耶会は個人情報保護法遵守の立場から会員個人情報については適切に扱うことが重要であると考えています。

- 登録の個人情報は、下記の目的に利用します。
  - 会員のデータ管理
  - 総会・同窓会活動各種案内
  - 会報『咲耶』の送付
  - 各支部からの申請に基づき、当該地域のデータ提供
  - 語科・同期会責任者からの申請に基づき、データ提供
  - その他会則に基づく活動
- 自己情報の提供は任意です。
- 個人データの本人からの請求があった場合には、開示、訂正、追加、利用停止、削除を行います。
- 同窓生情報のお問合せは、相手方会員の了解があった場合のみのご案内といたします。
- 登録の個人情報は委託先も含め、機密保持に万全を尽くします。

編集後記

『咲耶』29号をお届けします。  
2021年、母校は創立100周年を迎えます。同年4月には、現箕面キャンパスから箕面市船場地区の新キャンパスに移転します。創設期の上本町学舎から、高槻学舎を経て、再び上本町学舎へ。1979年に都心を離れ自然豊かな箕面キャンパスに移転してからも、はや40年近くが過ぎました。それぞれの学舎で過ごした青春の日々、恩師や友との出会いなど、同窓ならではの共通の想いがあります。その想いとは何かを探り、未来につなごうと、ささやかながら、特集「学舎・寮生活の思い出」を組みました。

現在、新箕面学舎の建設が進みつつあります。「大阪外国語大学記念ホール」の実現は、歴史ある母校の名を目に見える形で残す最後の機会であると考えます。会報『咲耶』を通じ、広く卒業生や関係の皆様へ呼びかけ、その想いと力を結集できればと思います。

会報『咲耶』については、皆様の温かいご支援のおかげで、苦しい財政事情の中、今号も、なんとか発刊に漕ぎつけました。状況がさらに悪化すれば、休刊あるいは紙面の大幅削減も考えねばなりません。皆様のご支援が頼りです。引き続きよろしく願い申し上げます。

(編集委員会)

会報 No.29 (2018)

発行 平成30年9月

発行者 咲耶会(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

〒562-8558 箕面市粟生間谷東8-1-1 大阪大学外国語学部内 E棟1F

TEL & FAX: 072(728)2327 E-mail: sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

ホームページ: sakuyakai.net

フェイスブックページ: www.facebook.com/SAKUYAKAI

郵便払込口座番号: 00910-7-21536 加入者名: 咲耶会

咲耶会 メールアドレスおよび  
連絡先 QR コード

咲耶会 facebook  
QR コード